# 平成20年度に実施した高等専門学校機関別
# 認証評価に関する検証結果報告書

平成22年1月

独立行政法人 大学評価・学位授与機構

## はじめに

大学評価・学位授与機構（以下「機構」という。）では、認証評価を開放的で進化する評価とするために、評価の経験や評価を受けた機関等の意見を踏まえつつ、常に評価システムの改善を図ることとしている。

このため、平成 17 年 7 月に文部科学大臣が認証する評価機関（認証評価機関）となって以降、はじめての経験となった平成 17 年度実施の高等専門学校機関別認証評価において、評価の終了後、評価対象校及び評価担当者へのアンケート調査を実施し、その結果等をもとに評価の有効性、適切性について検証を行った。この結果、評価内容・方法等の改善・充実すべき点を把握でき、平成 18 年度実施の認証評価に反映させた。同様に平成 18 年度以降に実施の高等専門学校の機関別認証評価においても評価終了後、アンケート調査を実施し、検証を行い翌年度実施の認証評価に改善点等を反映させた。（この検証結果は「平成 17 年度に実施した高等専門学校機関別認証評価に関する検証結果報告書」、「平成 18 年度に実施した高等専門学校機関別認証評価に関する検証結果報告書」「平成 19 年度に実施した高等専門学校機関別認証評価に関する検証結果報告書」としてまとめている。）

平成 20 年度実施の高等専門学校機関別認証評価においても、引き続きアンケート調査を実施して検証を行うこととし、ここに平成 20 年度実施の認証評価（２高等専門学校）に関する調査及び検証結果を取りまとめた。

# 目　　次

はじめに

Ⅰ　機構が実施した高等専門学校機関別認証評価の概要・・・・・・・・・　1

Ⅱ　平成 20 年度実施の認証評価に関する検証

１．検証の実施方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

２．項目別の検証

（１）評価基準及び観点について・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8
（２）評価担当者に対する研修について・・・・・・・・・・・・・・・　10
（３）自己評価書について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　11
（４）認証評価説明会・自己評価担当者等に対する研修会について・　13
（５）書面調査・訪問調査について・・・・・・・・・・・・・・・・・　14
（６）評価結果（評価報告書）について・・・・・・・・・・・・・・・　17
（７）評価を受けたことによる効果・影響について・・・・・・・・・　20
（８）評価の作業量・スケジュール等について・・・・・・・・・・・　24
（９）評価についての全般的な意見・感想・・・・・・・・・・・・・　28

３．総括・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　29

参考資料

１　認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）【対象校】
２　認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）【評価担当者】
３　認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【対象校】
４　認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【評価担当者】
５　認証評価に関する検証のためのアンケート【対象校】
６　認証評価に関する検証のためのアンケート【評価担当者】

# Ⅰ　機構が実施した高等専門学校機関別認証評価の概要

平成 20 年度に実施した認証評価の検証をまとめるに当たって、まず機構が実施した高等専門学校の機関別認証評価の概要について触れておく。

高等専門学校は、その教育研究水準の向上に資するため、教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の総合的な状況に関し、７年以内ごとに、文部科学大臣が認証する評価機関（認証評価機関）の実施する評価を受けることが義務づけられている（学校教育法第 109 条、同法第 123 条及び学校教育法施行令第 40 条)。

機構は、この認証評価制度の下で、高等専門学校の認証評価を行う「認証評価機関」として、平成 17 年７月、文部科学大臣から認証され、平成 17 年度より認証評価を開始した。平成 20 年度実施の認証評価は４回目の実施にあたる。

## １　目的

認証評価は、我が国の高等専門学校の教育研究水準の維持及び向上を図るとともに、その個性的で多様な発展に資するよう、以下のことを目的として行った。

（１）機構が定める高等専門学校評価基準に基づいて、高等専門学校を定期的に評価することにより、高等専門学校の教育研究活動等の質を保証すること。

（２）評価結果を各高等専門学校にフィードバックすることにより、各高等専門学校の教育研究活動等の改善に役立てること。

（３）高等専門学校の教育研究活動等の状況を明らかにし、それを社会に示すことにより、公共的な機関として高等専門学校が設置・運営されていることについて、広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していくこと。

## ２　実施体制

評価を実施するに当たっては、国・公・私立高等専門学校の関係者及び社会、経済、文化等各方面の有識者からなる高等専門学校機関別認証評価委員会（以下「評価委員会」という。）を設置し、その下に、具体的な評価を実施するため、対象高等専門学校の状況に応じた評価部会を編成した。

評価部会には、各高等専門学校の教育分野やその状況が多様であることなどを勘案し、対象高等専門学校の学科等の状況に応じた各分野の専門家及び有識者を評価担当者として配置した。

## ３　方法・プロセス

方法及びプロセスの概要は、下記のとおりである。

（１）高等専門学校における自己評価

各高等専門学校は、「自己評価実施要項」に従って自己評価を実施し、自己評価書を作成し、機構に提出した。

（２）機構における評価

機構における評価は、書面調査及び訪問調査により実施した。

①　書面調査は、「評価実施手引書」に基づき、対象高等専門学校から提出された自己評価書（高等専門学校の自己評価で根拠として提出された資料・データを含む。）及び機構が独自に調査・収集する資料・データ等に基づいて、対象高等専門学校の状況を分析した。

②　訪問調査は、「訪問調査実施要項」に基づき、書面調査では確認できない事項等を中心に調査を実施した。

③　基準ごとに、自己評価の状況を踏まえ、高等専門学校全体として、その基準を満たしているかどうかの判断を行い、理由を明らかにした。

　なお、基準の多くが、いくつかの内容に分けて規定されており、これらを踏まえ基本的な観点が設定されている。基準を満たしているかどうかの判断は、その「基本的な観点」の分析状況を総合した上で、基準ごとに行った。

④　基準を満たしているものの、改善の必要が認められる場合や、基準を満たしているもののうち、その取組が優れていると判断される場合には、その旨の指摘も行った。

⑤　高等専門学校全体として、すべての基準を満たしている場合に、機関としての高等専門学校が当機構の高等専門学校評価基準を満たしていると認め、その旨を公表した。（一つでも満たしていない基準があれば、高等専門学校全体として高等専門学校評価基準を満たしていないものとして、その旨を公表することとしている。）

## ４　スケジュール

（１）平成 19 年６月に国・公・私立高等専門学校の関係者に対し説明会を実施し、機関別認証評価の仕組み、方法などについて説明を行った。

（２）平成 19 年７月から９月にかけて、以下の２高等専門学校の申請を受け、評価を実施することとなった。

○ 公立高等専門学校（１高等専門学校）
　神戸市立工業高等専門学校

○ 私立高等専門学校（１高等専門学校）
　サレジオ工業高等専門学校

（３）平成 20 年２月から３月にかけて、対象高等専門学校の自己評価担当者等に対する研修を実施し、自己評価書の記載方法などについて説明を行った。

（４）平成 20 年６月に評価担当者が共通理解の下で公正、適切かつ円滑にその職務が遂行できるよう、高等専門学校評価の目的、内容及び方法等について評価担当者に対する研修を実施した。

（５）平成 20 年６月末に、対象高等専門学校から自己評価書の提出を受けた。

（６）対象高等専門学校からの自己評価書提出後の評価作業スケジュールは次のとおりであった。

| | |
|---|---|
| 20 年７月 | 書面調査の実施 |
| ８月 | 評価部会、財務専門部会の開催（書面調査による分析結果の整理、訪問調査での確認事項の決定及び訪問調査での役割分担の決定） |
| 10 月 | 訪問調査の実施（書面調査では確認できなかった事項等を中心に対象高等専門学校の状況を調査） |
| 12 月 | 評価部会、財務専門部会の開催（評価結果（原案）の作成） |

（７）これらの調査結果を踏まえ、平成 21 年１月に評価委員会で評価結果（案）を決定した。

（８）評価結果（案）に対する意見の申立ての機会を設け、平成 21 年３月の評価委員会での審議を経て最終的な評価結果を確定した。

## ５　評価結果

平成 20 年度に認証評価を実施した２高等専門学校のすべてが、機構の定める高等専門学校評価基準を満たしているとの評価結果となった。

機構はこの評価結果を平成 21 年３月 27 日付で、各対象機関及び設置者へ通知するとともに、機構のウェブサイトにより公表し、かつ文部科学大臣へ報告した。

※　高等専門学校評価基準（機関別認証評価）は機構ウェブサイトを参照のこと。

## Ⅱ　平成 20 年度実施の認証評価に関する検証

### １．検証の実施方法

#### （１）アンケート調査の実施

平成 20 年度実施の認証評価の対象高等専門学校（以下「対象校」という。）及び評価担当者に対し、記名選択式回答（５段階）及び自由記述からなるアンケート調査を実施した。

アンケート調査項目は次のとおりである。

〔対象校〕

１．評価基準及び観点について
２．評価の方法及び内容について
　（１）自己評価について
　（２）訪問調査等について
　（３）意見の申立てについて
３．評価の作業量、スケジュール等について
　（１）評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間について
　（２）評価作業に費やした労力について
　（３）評価のスケジュールについて
４．説明会・研修会等について
５．評価結果（評価報告書）について
　（１）評価報告書の内容等について
　（２）自己評価書及び評価報告書の公表について
　（３）評価結果に関するマスメディア等の報道について
６．評価を受けたことによる効果・影響について
７．評価結果の活用について
８．評価の実施体制について
９．その他

〔評価担当者〕

１．評価基準及び観点について
２．評価の方法及び内容・結果について
　（１）自己評価書について
　（２）書面調査について
　（３）訪問調査について

（４）評価結果について

３．研修について

４．評価の作業量、スケジュールについて

（１）評価に費やした作業量及び機構の設定した作業期間について

（２）評価作業に費やした労力について

（３）評価作業にかかった時間数について

５．評価部会等の運営について

６．評価全般について

**（２）アンケート調査結果等の検証**

対象校及び評価担当者に対するアンケート調査項目から、主要な項目を整理・分類し、項目別に分析を行った。その上で、評価実施過程において機構が把握した問題点等も踏まえ、評価の有効性、適切性を検証した。

分析項目は以下のとおりである。

（１）評価基準及び観点について

（２）評価担当者に対する研修について

（３）自己評価書について

（４）認証評価説明会・自己評価担当者等に対する研修会について

（５）書面調査・訪問調査について

（６）評価結果（評価報告書）について

（７）評価を受けたことによる効果・影響について

（８）評価の作業量・スケジュール等について

（９）評価についての全般的な意見・感想

**※　アンケート調査に係る補足事項**

１．平成 19 年度アンケートからの変更点

平成 20 年度におけるアンケートでは、平成 19 年度に実施したアンケートに対し、選択式の設問について、一部の設問の表現をより適切なものに改めるなどの変更を行った。

２．アンケート用紙配付日程

| | 平成 20 年度 |
|---|---|
| 対象校 | 平成 21 年３月 30 日 |
| 評価担当者 | 平成 20 年 12 月 25 日 |

３．平成 20 年度アンケートの回収状況

| | 回答数 | 回収率 |
|---|---|---|
| 対象校 | ２校中２校 | 100％ |
| 評価担当者 | 13 名中 10 名 | 77％ |

## ２．項目別の検証

### （１）評価基準及び観点について

機構が定める評価基準及び観点の構成や内容が、高等専門学校の教育研究活動等に関する「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の３つの目的に照らして適切であったか、また、評価基準及び観点の中で対象校が自己評価を行う際に自己評価しにくいもの、評価担当者が評価しにくいものがあったかどうかなどについて検証を行った。

#### ①評価の目的等との関係

対象校及び評価担当者に対するアンケート調査において、評価基準及び観点の構成や内容が「教育研究活動等の質を保証するために適切であった」（機関１-①、評１-①※）か及び「教育研究活動等の改善を促進するために適切であった」（機関１-②、評１-②）か質問したところ、「質の保証」に対して、対象校では２校とも「強くそう思う」と回答し、評価担当者では、肯定的な回答が 90%（「強くそう思う」50%、「そう思う」40%）、「どちらとも言えない」が 10%であった。

「改善の促進」に対しては、対象校では「強くそう思う」が１校、「そう思う」が１校、評価担当者では肯定的な回答が 100%（「強くそう思う」30%、「そう思う」70%）であった。

いずれについても、対象校、評価担当者の９割以上が肯定的に回答しており、評価基準及び観点の構成や内容が教育活動等の「質の保証」「改善の促進」という目的に照らして適切であると高く評価されていることがわかる。

一方、評価基準及び観点の構成や内容が「教育活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった」（機関１-③、評１-③）かとの質問に対しては、対象校では「強くそう思う」が１校、「そう思う」が１校、評価担当者では肯定的な回答が 80%（「強くそう思う」30%、「そう思う」50%）、「どちらとも言えない」が 20%であった。これについて全ての対象校及び評価担当者の８割が肯定的な回答をしており、評価基準及び観点の構成や内容が「社会からの理解と支持」という目的に照らしておおよそ適切であるとの評価がなされていることがわかる。

次に、対象校及び評価担当者に対し、「評価基準及び観点の構成を、教育活動を中心に設定していることは適切であった」（機関１-④、評１-④）かとの質問に対しては、対象校では２校とも「強くそう思う」と回答し、評価担当者も全てが肯定的な回答（「強くそう思う」50%、「そう思う」50%）であった。対象校及び評価担当者の全てが肯定的に回答しており、教育活動を中心とした評価基準及び観点の設定に

※「機関〇-〇」…参考資料「認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）【対象校】」における番号に対応
「評〇-〇」…参考資料「認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）【評価担当者】」における番号に対応

ついては高く評価されていることがわかる。

**②具体の評価基準及び観点について**

対象校に対するアンケート調査において、「自己評価しにくい基準又は観点があった」（機関１-⑤）か質問したところ、２校とも「ない」と回答し、自己評価しにくい評価基準又は観点はなかったとしている。

評価担当者に対するアンケート調査において、「評価しにくい評価基準又は観点があった」（評１-⑤）か質問したところ、「ある」とする回答が 40%、「ない」とする回答が 60%であった。評価担当者の４割が評価しにくい評価基準又は観点があったとしている。

次に、対象校及び評価担当者に対するアンケート調査において、「評価基準又は観点のうち、内容が重複するものがあった」（機関１-⑥、評１-⑥）か質問したところ、対象校では「ある」が１校、「ない」が１校、評価担当者では「ある」が 20%、「ない」が 80%であった。

**③評価と課題**

評価基準及び観点の構成や内容については、対象校及び評価担当者双方から、高等専門学校の教育研究活動等の「質の保証」「改善の促進」というそれぞれの評価の目的に照らして適切であると高く評価されている。

一方、評価基準及び観点の構成や内容が、高等専門学校の「教育研究活動等について社会からの理解と支持という目的に照らして適切であった」かという設問に対しては、全ての対象校及び評価担当者の８割が肯定的に回答しおおよそ適切であると評価されている。

また、評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることについてもその適切性が認められている。

評価しにくい評価基準又は観点があったかについては、評価担当者の４割が評価しにくい評価基準又は観点があったとしている。

また、評価基準又は観点のうち、内容が重複するものがあったかについては、対象校のうち１校及び評価担当者の８割が重複するものはなかったとしている。

ただし、自由記述において、評価担当者からは評価しにくい評価基準又は観点として、インターンシップの取扱などについて創造性を育む教育方法の工夫とは別項目とし取り扱うべきとの意見があった。平成 20 年度実施分についても、認証評価説明会及び自己評価担当者等に対する研修会や訪問説明時の機会を利用して、観点の趣旨やねらいについて詳細な説明を行ったところであるが、引き続き対象校に対しては、説明会や自己評価担当者等に対する研修会、評価担当者に対しては研修会等を通じて理解が得られるよう工夫していくことが必要である。

## （２）評価担当者に対する研修について

評価担当者が共通理解のもとで公正、適切かつ円滑にその職務を遂行できるよう、認証評価の目的、内容及び方法等についての研修を実施しているが、その内容について検証を行った。

### ①評価の目的等との関係

評価担当者に対するアンケート調査において、「研修の内容は役立った」（評３-③）か質問したところ、肯定的な回答が 100%（「強くそう思う」33%、「そう思う」67%）となり、評価担当者は研修が有効であったと高く評価している。

研修の内容についてみると、「研修の説明内容は理解しやすかった」（評３-②）かとの質問については、肯定的な回答が 83%（「強くそう思う」33%、「そう思う」50%）、「どちらとも言えない」が 17%、「研修の配付資料は理解しやすかった」（評３-①）かとの質問については、肯定的な回答が 83%（「強くそう思う」33%、「そう思う」50%）、「どちらとも言えない」が 17%で、いずれの質問についても肯定的な回答が８割程度を占め、おおよそ評価されていることがわかる。

また、「書面調査のシミュレーションは役立った」（評３-④）かとの質問については、「強くそう思う」が 50%、「どちらとも言えない」が 50%であり、評価担当者の半数が肯定的な回答をしているものの、どちらとも言えないとする回答も半数見られる。

次に、「研修に費やした時間の長さは適当であった」（評３-⑤）か質問したところ、肯定的な回答が 67%（「強くそう思う」34%、「そう思う」33%）、「どちらとも言えない」が 33%、「そう思わない」が２%であり、評価担当者の６割以上が肯定的な回答をしているものの、否定的又はどちらとも言えないとする回答も一定数見られる。

### ②評価と課題

評価担当者に対する研修については、説明内容や配付資料が理解しやすいと高く評価されている。

なお、書面調査の内容のシミュレーションについては肯定的な回答は半数、研修時間の長さについては肯定的な回答は６割程度にとどまった。自由記述では、シミュレーションスタディではチェックすべきポイントを鋭く指摘し注意喚起を促しているが、書面調査でシミュレーション研修に倣って指摘を行っても、個々の委員がそれぞれ持ちよった評価をまとめる打合せ段階では評価がやや甘くなるように感じる場合があるとの意見もあった。

### （３）自己評価書について

評価の実施に当たり対象校が作成した自己評価書が、機構の定める評価基準及び観点に基づき、評価を行う上で適切なものとなっていたか、また、添付資料が適切であったかなどについて検証を行った。

#### ①自己評価書の記述について

対象校に対するアンケート調査において、「評価基準及び観点に基づき、適切に自己評価を行うことができた」（機関２-（１）-①）か質問したところ、肯定的な回答が「強くそう思う」１校、「そう思う」が１校と回答し、全ての対象校が肯定的に回答しており、適切に自己評価ができたと高く認識していることがわかる。

なお、「貴校の総合的な状況が広く社会等の理解を得るために、わかりやすい自己評価書を作成することができた」（機関２-（１）-④）かとの質問については、肯定的な回答が「そう思う」が１校、「どちらとも言えない」が１校であった。

また、「自己評価書の完成度は満足できるものであった」（機関２-（１）-⑤）かとの質問については、「強くそう思う」が１校、「どちらとも言えない」が１校であった。

一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「高等専門学校の自己評価書は理解しやすかった」（評２-（１）-①）か質問したところ、肯定的な回答が 40%（「強くそう思う」10%、「そう思う」30%）、「どちらとも言えない」が 40%、「そう思わない」が 20%となり、肯定的な回答が４割にとどまった。

また、「自己評価書には評価基準及び観点の内容が適切に記述されていた」（評２-（１）-②）かについては、肯定的な回答が 40%（「強くそう思う」20%、「そう思う」20%）、「どちらとも言えない」が 30%、「そう思わない」が 30%であった。肯定的な回答が４割にとどまった。

このことから、対象校が適切に自己評価を行ったと考えているほどには、評価担当者は評価していないことがわかる。

次に、対象校に対するアンケート調査において、「自己評価書の文字数制限は、自己評価書を作成する上で十分な量であった」（評２-（１）-⑥）か質問したところ、「どちらとも言えない」が１校、「そう思わない」が１校であった。

また、「自己評価書の作成にあたって、既に機構の認証評価を受けた他機関の自己評価書を参考にした」（機関２-（１）-⑦）かとの質問については、２校とも「参考にした」と回答し、他機関の自己評価書を参考にしていることがわかる。

#### ②自己評価書の添付資料について

対象校に対するアンケート調査において、「自己評価書に添付する資料は、既に蓄積していたもので十分対応することができた」（機関２-（１）-②）か質問したとこ

ろ、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が１校であった。

また、「自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った」（機関２-（１）-③）かとの質問については、「迷った」が１校、「迷っていない」が１校であった。

一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた」（評２-（１）-③）か質問したところ、「そう思う」が 10%、「どちらとも言えない」が 70%、「そう思わない」が 20%であった。評価担当者における肯定的な回答が１割にとどまり、否定的又はどちらとも言えないとする回答が９割であった。

**③評価と課題**

評価基準及び観点に基づき、適切に自己評価がなされ、自己評価書がわかりやすいものとなったかについては、対象校は概ね肯定的な評価をしていることがわかるが、評価担当者は対象校ほど評価していない。自由記述では、評価担当者から項目に沿った記述をしていない、具体的な表現に欠ける、内容が省略しすぎてわかりづらいなどといった意見があった。

自己評価書の文字数については、十分な量であったとした対象校はなかった。これについては、基準間での文字数の調整を弾力的に認めることとしているところであるが、今後の説明会等での理解の促進などに配慮することが望まれる。

また、自己評価書の添付資料については、全ての対象校が蓄積した資料で十分対応することができたと認識しているが、評価担当者からは必要な根拠資料が引用・添付されていたとは評価されていなかった。

このような課題は、対象校が評価の経験を積み重ねることにより、徐々に解消されると期待されるが、機構としても、研修会や説明会を通じて、機構の定める評価基準及び観点に関する対象校の理解をより一層深めることや、特に自己評価書作成に当たっての留意点について説明を工夫するなど、さらにきめ細やかな対応が求められると考えられる。

### （４）認証評価説明会・自己評価担当者等に対する研修会について

機構が実施する認証評価の趣旨・目的、実施方法等について理解を図るために実施する説明会や、機構の評価を希望する高等専門学校の自己評価担当者等を対象に、認証評価の仕組み、評価方法及び自己評価書の作成方法等について一層の理解を深めてもらうために実施する研修会について、その有効性等の検証を行った。

#### ①認証評価説明会・自己評価担当者等に対する研修会について

対象校に対するアンケート調査において、認証評価説明会及び訪問説明に関して、「説明会の内容は役立った」（機関４-③）か、「機構が行った訪問説明は役立った」（機関４-⑧）か質問したところ、いずれについても２校とも「強くそう思う」と回答し、説明会、訪問説明が高く評価されていることがわかる。

また、説明会の内容及び配付資料について、「説明会の内容は理解しやすかった」（機関４-②）か、「説明会の配付資料は理解しやすかった」（機関４-①）かと質問したところ、いずれについても２校とも「強くそう思う」と回答し、理解しやすかったと高く評価されていることがわかる。

次に、自己評価担当者等に対する研修会に関して、「自己評価担当者等に対する研修会の内容は役立った」（機関４-⑥）か質問したところ、２校とも「強くそう思う」と回答し、研修会が十分有効であったことがわかる。

また、研修会の内容及び配付資料について、「自己評価担当者等に対する研修会の内容は理解しやすかった」（機関４-⑤）か、「機構が配付している自己評価実施要項等の冊子は役立った」（機関４-⑦）かと質問したところ、いずれについても２校とも「強くそう思う」と回答し、高く評価されていることがわかる。

なお、「自己評価担当者等に対する研修会の配布資料は理解しやすかった」（機関４-④）かとの質問については、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が１校、「説明会、研修会等における機構の事務担当者の対応（質問等に対する対応）は適切であった」（機関４-⑨）かとの質問については、２校とも「強くそう思う」と回答し、高く評価されている。

#### ②評価と課題

認証評価説明会及び自己評価担当者等に対する研修会については、対象校から総じて十分理解しやすく役立ったとの評価がなされた。

また、資料についても、説明会、研修会の配付資料及び自己評価実施要項等の冊子について、十分理解しやすいものになっていると評価されている。

説明会、研修会ともに、対象校からは評価されてはいるが、引き続き実施時期・実施方法等について工夫していくことが望まれる。

## （５）書面調査・訪問調査について

対象校から提出された自己評価書等に基づき、評価部会において評価担当者が対象校の状況を分析する書面調査について、分析の方法、分析状況の対象校への伝達内容等が適切であったかについて検証した。また、書面調査の後、対象校を訪問して書面調査では確認できない事項等を中心に調査する訪問調査について、その内容や方法、あらかじめ通知する「訪問調査時の確認事項」の内容が適切であったかなどについて検証を行った。

### ①書面調査による分析について

評価部会による書面調査の分析結果について事実誤認がないかを確認するため、訪問調査前にその分析状況を「書面調査による分析状況」という名称の文書により当該対象校に通知しているが、対象校に対するアンケート調査において、「訪問調査の前に提示された、『書面調査による分析状況』の内容は適切であった」（機関２-（２）-①）か質問したところ、２校とも「強くそう思う」と回答しており、書面調査の分析結果の評価については十分評価されていることがわかる。

一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報（客観的データ等）があればよかった」（評２-（１）-⑤）か質問したところ、「そう思う」が 20%、「どちらとも言えない」が 30%、否定的な回答が 50%（「そう思わない」30%、「全くそう思わない」20%）であった。肯定的な回答は２割にとどまることから、参考となる情報は必ずしも必要ではないと認識されていることがわかる。

また、書面調査の分析内容を記入するために、「機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった」（評２-（１）-④）か質問したところ、肯定的な回答が 80%（「強くそう思う」40%、「そう思う」40%）、「どちらとも言えない」が 20%であった。評価担当者の８割が肯定的な回答をしており、おおよそ評価されていることがわかる。

### ②訪問調査時の確認事項について

訪問調査に先立ち、あらかじめ訪問調査の際に確認したい事項を「訪問調査時の確認事項」という名称の文書により対象校に通知しているが、対象校に対するアンケート調査において、「訪問調査の前に提示された、『訪問調査時の確認事項』の内容は適切であった」（機関２-（２）-②）か質問したところ、２校とも「強くそう思う」と回答しており、「訪問調査時の確認事項」の内容については十分評価されていることがわかる。

一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「『訪問調査時の確認事項』の回答内容は適切であった」（評２-（２）-①）か質問したところ、肯定的な回答が

80%（「強くそう思う」20%、「そう思う」60%）、「どちらとも言えない」が 20%であった。評価担当者の８割が肯定的に回答しており、対象校からの回答内容についてもおおよそ評価されていることがわかる。

**③訪問調査の実施内容について**

対象校に対するアンケート調査において、「訪問調査時に機構の評価担当者が質問した内容は適切であった」（機関２-（２）-③）か質問したところ、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が１校であった。

また、「訪問調査の実施内容（高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生との面談）は適切であった」（機関２-（２）-④）か「訪問調査では、機構の評価担当者との間で、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた」（機関２-（２）-⑤）か質問したところ、いずれについても２校とも「強くそう思う」と回答し、訪問調査の実施内容について高く評価されていることがわかる。

一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「訪問調査の実施内容（高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生との面談）は適切であった」（評２-（２）-③）かとの質問については、肯定的な回答が 100%（「強くそう思う」78%、「そう思う」22%）であった。また、「訪問調査によって不明な点を十分に確認することができた」（評２-（２）-②）かとの質問については、肯定的な回答が 90%（「強くそう思う」30%、「そう思う」60%）、「どちらとも言えない」が 10%であった。いずれについても評価担当者の９割以上が肯定的に回答しており、それぞれ高く評価されていることがわかる。

次に、「訪問調査では、対象校と、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた」（評２-（２）-④）かとの質問については、肯定的な意見が 100%（「強くそう思う」33%、「そう思う」67%）であった。全ての評価担当者が肯定的な回答をしており、高く評価されていることがわかる。

**④訪問調査時の人数・構成等について**

対象校に対するアンケート調査において、「訪問調査時の機構の評価担当者（事務担当者を除く）の人数や構成は適切であった」（機関２-（２）-⑥）か質問したところ、肯定的な回答が「強くそう思う」が１校、「そう思う」が１校であった。２校とも肯定的に回答しており、評価担当者の人数及び構成について高く評価されていることがわかる。

なお、「訪問調査時の機構の評価担当者は十分に研修を受けていたと思う」（機関２-（２）-⑦）か質問したところ、１校が「強くそう思う」と回答している。

一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「訪問調査時の機構の評価担当者（事務担当者を除く）の人数や構成は適切であった」（評２-（２）-⑤）か質問したところ、肯定的な回答が 100%（「強くそう思う」33%、「そう思う」67%）であった。全ての評価担当者が肯定的に回答しており、評価担当者の人数及び構成について適切であったと評価されていることがわかる。

**⑤評価と課題**

書面調査に関し、評価担当者では、参考となる情報（客観的データ等）が必要であるとした者は２割にとどまり、自己評価書及び添付資料で十分であると考えられていることがわかる。また、機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかったとおおよそ評価されている。

対象校においては、書面調査の後、当該対象校に対して送付される「書面調査による分析状況」、「訪問調査時の確認事項」の内容については、いずれも対象校から適切であったと高く評価されている。

また、訪問調査の実施内容及び訪問調査時の機構の評価担当者の人数・構成については、対象校及び評価担当者ともに適切であったと考えられている。

なお、平成 20 年度実施分からは、訪問調査の日程について、対象校からの意見等を踏まえ、調査項目の変更なしに２日間の日程に見直したところであるが、自由記述では、評価担当者から、不明な点は十分に確認できたが、確認に時間を取られて、優れた点の掘り起こし作業ができなかった、２日間の調査の結果を、夜のミーティングを通して協議し、最終日に再度確認しながらまとめる３日間方式の方がきめ細かな正しい評価ができるとの意見も出されている。訪問調査においては、対象校の負担を軽減するとともに、評価担当者が十分に作業できるよう効率的な方法について引き続き工夫していくことが望まれる。

## （６）評価結果（評価報告書）について

機構の作成した評価報告書の内容や意見申立ての実施方法等が適切なものであったかについて検証を行った。

### ①評価報告書の内容について

対象校に対するアンケート調査において、「総じて、機構による評価報告書の内容は適切であった」（機関５-（１）-⑨）か質問したところ、２校とも「強くそう思う」と回答しており、評価報告書の内容全体は、適切なものとして高く評価されていることがわかる。

次に、「質の保証」「改善の促進」「社会の理解と支持」という評価の３つの目的に照らして、「評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等の質の保証をするために十分なものであった」（機関５-（１）-①）か、「評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等の改善に役立つものであった」（機関５-（１）-②）か、「評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等について社会の理解と支持を得られることを支援・促進するものであった」（機関５-（１）-③）か質問したところ、いずれについても２校とも「強くそう思う」と回答しており、評価の目的に照らして役立ったと高く評価されていることがわかる。

また、「評価報告書の内容から、教育研究活動等に関して新たな視点が得られた」（機関５-（１）-⑦）か質問したところ、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が１校であった。全ての対象校が肯定的に回答しており、新たな視点が得られたと高く評価されていることがわかる。

次に、「評価報告書の内容は、貴校の目的に照らし適切なものであった」（機関５-（１）-④）か、「評価報告書の内容は、貴校の実態に即したものであった」（機関５-（１）-⑤）か質問したところ、いずれについても２校とも「強くそう思う」と回答しており、評価報告書の内容は、対象校の目的に照らして適切であり、実態に即した内容であったと高く評価されていることがわかる。

また、「評価報告書の内容は、貴校の規模等（資源・制度など）を考慮したものであった」（機関５-（１）-⑥）か質問したところ、２校とも「強くそう思う」と回答しており、評価報告書の内容が対象校の規模等を考慮していると高く評価されていることがわかる。

さらに、評価報告書の記述について、「評価報告書の構成及び内容はわかりやすいものであった」（機関５-（１）-⑧）か質問したところ、２校とも「強くそう思う」と回答しており、評価報告書の記述についてはわかりやすいと高く評価されていることがわかる。

一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「自らが担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された」（評２-（３）-①）か質問したとこ

ろ、肯定的な回答が 100%（「強くそう思う」40%、「そう思う」60%）であった。全ての評価担当者が肯定的に回答しており、書面調査・訪問調査の内容の評価報告書への反映について高く評価されていることがわかる。

次に、「基準１から基準 11 の評価で、基準を満たしているかどうかの判断を示すという方法は適切であった」（評２-（３）-②）か質問したところ、肯定的な回答が 80%（「強くそう思う」40%、「そう思う」40%）、「どちらとも言えない」が 20%、「評価報告書の最初に、全体の評価結果と併せて対象校の『主な優れた点』、『主な改善を要する点』を記述するという形式は適切であった」（評２-（３）-④）かとの質問については、肯定的な回答が 90%（「強くそう思う」30%、「そう思う」60%）、「どちらとも言えない」が 10%であった。基準ごとの判断については評価担当者の８割が肯定的に回答し、おおよそ評価されていることがわかる。また、優れた点、改善を要する点の記述については９割の評価担当者が肯定的に回答し、高く評価されていることがわかる。

また、「評価結果全体としての分量は適切であった」（評２-（３）-③）か質問したところ、肯定的な回答が 80%（「強くそう思う」30%、「そう思う」50%）、「どちらとも言えない」が 20%であった。評価担当者の８割が肯定的に回答しており、分量は適切であるとおおよそ評価されていることがわかる。

**②評価結果の公表について**

対象校に対するアンケート調査において、「今回の評価のために作成した自己評価書をウェブサイトなどで公表している」（機関５-（２）-①）か質問したところ、「公表している」が１校、「公表していない」が１校、「評価報告書をウェブサイトで公表している」（機関５-（２）-①）かとの質問については、２校とも「公表している」と回答している。

次に、「評価結果に関して、マスメディア等から適切な報道がなされた」（機関５-（３）-①）か質問したところ、１校が「全くそう思わない」と回答した。肯定的な回答はなく、必ずしも適切であったと考えられていないことがわかる。

**③意見の申立てについて**

意見の申立てを行ったか否かに関わらず、全ての対象校に対し、意見の申立て方法等について質問を行った。(今回の機関別認証評価を実施した２校とも意見の申立てを行っていない)

「意見の申立ての実施方法及びスケジュールは適切であった」（機関２-（３）-①）か、「『意見の申立ての内容及びその対応』を評価報告書に掲載したことは適切であった」（機関２-（３）-②）かと質問したところ、いずれについても２校とも「強くそう思う」と回答しており、意見の申立方法及び内容や対応の評価報告書への記載

の適切性についてはそれぞれ適切であったと高く評価されていることがわかる。

**④評価と課題**

評価報告書の内容について、対象校からは、総じて適切であり、それぞれの教育研究活動等の質の保証、改善の促進、社会からの理解・支持のために十分なものであるとともに、各対象校の目的に対して十分適切かつ実態に即したものであり、規模等にも考慮されていたと考えられている。さらに、評価報告書の記述についても分かりやすいと高い評価がなされた。

一方、評価担当者からは、評価報告書の内容について、書面調査、訪問調査の内容が評価結果に反映されたと高く評価されており評価報告書の構成についても十分適切であると考えられている。また、結果の表し方、評価結果の分量についてもおおよそ適切であると考えられている。

次に、評価結果の公表に関して、自己評価書については２校のうち１校が、評価報告書については２校とも公表していると回答している。なお、マスメディア等による報道の適切性については、肯定的な回答は見られず、適切になされたとは思われていないと考えられる。機構としては、記者会見の場で認証評価の評価結果を発表するとともに、その意義等を説明しているものの、認証評価の意義についてマスメディアの理解が十分であるとは言えない。対象校からの自由記述では、高専２校だったので大学のようには関心はもたれなかったのではないだろうかという意見もあった。引き続き認証評価制度や機構の行う評価の意義について理解が得られ、広く報道されるよう、工夫していくことが望まれる。

今回の機関別認証評価において意見申立てを行った対象校はなかったが、意見の申立ての実施方法、内容や対応の評価報告書への記載の適切性については適切であると考えられている。

### （７）評価を受けたことによる効果・影響について

今回の評価のために自己評価を実施したことや評価結果を受けたことが、対象校に対してどのような効果・影響を与えたかについて検証を行った。

#### ①自己評価を行ったことによる効果・影響

対象校に対するアンケート調査において、認証評価を受けるに当たって自己評価を行ったことによる効果や影響について、「教育研究活動等について全般的に把握することができた」（機関６-（１）-①）か、「教育研究活動等の今後の課題を把握することができた」（機関６-（１）-②）かと質問したところ、いずれについても２校とも「強くそう思う」と回答しており、それぞれ高く評価されていることがわかる。

次に、教職員の意識への効果・影響について、「教育研究活動を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透した」（機関６-（１）-③）か、「自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透した」（機関６-（１）-⑨）か質問したところ、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が１校、「各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上した」（機関６-（１）-④）か、「評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上した」（機関６-（１）-⑩）かとの質問については、２校とも「そう思う」と回答した。いずれについても２校とも肯定的に回答しており、自己評価を行ったことにより、教職員の意識に対してこれらの効果・影響があったと高く評価されている。

さらに、「貴校の教育研究活動等の改善を促進した」（機関６-（１）-⑤）かとの質問については「強くそう思う」が１校、「そう思う」が１校、「貴校のマネジメントの改善を促進した」（機関６-（１）-⑦）かとの質問については、２校とも「強くそう思う」と回答している。教育活動等の改善推進、マネジメントの改善促進については、２校とも肯定的に回答しておりそれぞれ高く評価していることがわかる。

また、「貴校の個性的な取組を促進した」（機関６-（１）-⑧）かとの質問については、２校とも「強くそう思う」と回答し、「貴校の将来計画の策定に役立った」（機関６-（１）-⑥）か質問したところ、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が１校であった。いずれについても２校とも肯定的に回答しており、個性的な取組の促進、将来計画策定への有用性に効果があったと高く評価されている。

#### ②評価結果を受けたことによる効果・影響

対象校に対するアンケート調査において、評価結果を受けて今後どのような効果・影響があるかについて、「教育研究活動等について全般的に把握することができる」（機関６-（２）-①）か質問したところ、２校とも「強くそう思う」と回答し、「貴校の教育活動等の今後の課題を把握することができる」（機関６-（２）-②）かとの質問については、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が１校であった。いず

れについても２校とも肯定的な回答をしており、それぞれ高く評価されていることがわかる。

次に、教職員の意識への効果、影響について、「自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透する」（機関６-（２）-⑨）か質問したところ、２校とも「そう思う」と回答し、「教育活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透する」（機関６-（２）-③）かとの質問については、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が１校、「評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上する」（機関６-（２）-⑪）かとの質問については、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が１校、「各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上する」（機関６-（２）-④）かとの質問については、２校とも「そう思う」と回答した。いずれについても、２校とも肯定的に回答しており、高く評価されていることがわかる。

また、「教職員に評価結果の内容が浸透する」（機関６-（２）-⑩）か質問したところ、２校とも「そう思う」と回答しており、評価結果の教職員への浸透については高く評価されていることがわかる。

さらに、「貴校のマネジメントの改善を促進する」（機関６-（２）-⑦）か、「貴校の個性的な取組を促進する」（機関６-（２）-⑧）かと質問したところ、２校とも「強くそう思う」と回答し、「貴校の将来計画の策定に役立つ」（機関６-（２）-⑥）かとの質問については、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が１校、「貴校の教育活動等の改善を促進する」（機関６-（２）-⑤）かとの質問については、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が１校であった。いずれについても、２校とも肯定的に回答しており、高く評価されている。

また、「貴校の教育研究活動等の質が保証される」（機関６-（２）-⑫）かとの質問については、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が１校であった。２校とも肯定的に回答しており、評価結果による質の保証については高く評価されていることがわかる。

次に、「学生（今後入学する学生を含む）の理解と支持が得られる」（機関６-（２）-⑬）か質問したところ、２校とも「そう思う」と回答し、「広く社会の理解と支持が得られる」（機関６-（２）-⑭）かとの質問については、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が１校であった。いずれについても２校とも肯定的に回答しており、高く評価されていることがわかる。

また、「他校の評価結果から優れた取組を参考にする」（機関６-（２）-⑮）かとの質問については、「強くそう思う」が１校、「どちらとも言えない」が１校であった。

### ③評価結果の活用について

機構の評価を受けたことを契機に、実施を予定している（または実施済みの）変更・改善の取組として、対象校から次の事例が挙げられた。なお、文末【　】内の

数字は、変更・改善の際の機構の評価（機構の評価報告書の内容だけでなく、対象校による自己評価書の作成や、評価の過程で得られた知見を含む）の参考度を対象校が示したものである。

【５：非常に参考になった～３：参考になった～１：あまり参考にならなかった】

**（基準４）「学生の受入」**

- 専攻科運営プロジェクトを発足し、この問題の解決を図る【３】

**（基準５）「教育内容及び方法」**

- 目下、専攻科長を中心に利用促進をはかる方向で検討中【３】
- 全校 FD を開催し、シラバス改善の研修を行った【４】

**（基準７）「学生支援等」**

- 担任、学生主事室、市全体のカウンセラーシステムの利用等を促進する方向で臨んでいる。【３】

**（基準 10）「財務」**

- 資金収支均衡を達成し、消費収支改善を目指す。科研費管理規程整備は完了した【３】

**④評価と課題**

対象校が自己評価を行ったことによる効果・影響については、教育研究活動等の状況や課題の把握に役立ち、教育研究活動等の改善の促進につながるなどの効果・影響があったことがわかる。

教職員の意識への効果・影響については、教育研究活動等の組織的運営、自己評価の重要性の浸透、各教員の教育研究活動等へ取組の意識、評価に関する知識や技術の向上について効果・影響があったと高く評価されている。自由記述では、PDCA の基本概念を全教職員が知ることができたことを自己評価を行ったことによる効果として挙げているところもあった。

また、対象校のマネジメントの改善促進、将来計画の策定への有用性に関しても効果・影響があったと考えられている。

次に、対象校における評価結果を受けたことによる効果・影響については、教育研究活動等の状況や今後の課題の把握に役立ち、教育研究活動等の改善促進、質保証に効果・影響があったことがわかる。

一方、教職員の意識への効果・影響については、自己評価、教育研究活動等の組織的運営の重要性、評価に関する知識や技術の向上、教育研究への取組の意識向上、

評価結果の内容の浸透、それぞれに効果・影響があったことがわかる。

また、マネジメントの改善促進、個性的な取組の促進、将来計画の策定への有用性に関しても効果・影響があったと考えられている。

学生（今後入学する学生を含む）及び社会の理解と支持への効果・影響については、２校とも肯定的に回答しており、理解が得られていると考えていることがわかる。

評価結果の活用については、対象校から改善取組事例が挙げられていることから、対象校が評価を手段として捉え、その結果をもとに実際に教育研究活動等の改善・向上に取り組んでいることがわかるが、機構としても引き続き各対象校における評価結果の活用を促進していくことが重要である。

## （８）評価の作業量・スケジュール等について

今回の評価の実施に係る作業量や作業期間がどうであったかを対象校、評価担当者の双方について検証を行った。

### ①対象校から見た作業量・スケジュール等

**・評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間**

対象校に対するアンケート調査において、「自己評価書の作成」（機関３-（１）-①）、「訪問調査の前に提示された『訪問調査時の確認事項』への対応」（機関３-（１）-②）、「訪問調査のための事前準備」（機関３-（１）-③）、「訪問調査当日の対応」（機関３-（１）-④）、「意見の申立て」（機関３-（１）-⑤）に関する作業量及びこのために機構が設定した作業期間について、それぞれ質問した。

まず、「自己評価書の作成」に関して、作業量については２校とも「とても大きい」と回答している。また、作業期間は、「とても長い」とする回答が１校、「適当」が１校となっている。

次に、「訪問調査の前に提示された『訪問調査時の確認事項』への対応」に関して、作業量については、２校とも「大きい」と回答している。また、作業期間は、「確認事項」の送付から回答まで２～３週間程度の期間を設けているが、これについて「長い」とする回答が１校、「短い」が１校となっている。

続いて、「訪問調査のための事前準備」に関して、作業量については、２校とも「大きい」と回答している。また、作業期間は、約１ヶ月程度の期間を設けているが、これについて「長い」とする回答が１校、「短い」が１校となっている。

「訪問調査当日の対応」に関して、作業量については、「とても大きい」とする回答が１校、「適当」が１校となっている。また、作業期間については、「とても長い」とする回答が１校、「適当」が１校となっている。

さらに、「意見の申立て」に関して、作業量については、「とても大きい」とする回答が１校、「適当」が１校となっている。作業期間については、「とても長い」とする回答が１校、「適当」が１校となっている。

**・評価に費やした労力**

対象校に対するアンケート調査において、評価作業に費やした労力は、「質の保証」「改善の推進」「社会の理解と支持」という３つの目的に照らして、「貴校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった」（機関３-（２）-①）か質問したところ、２校とも「そう思う」と回答し、「貴校の教育研究活動等の改善を進めるという目的に見合うものであった」（機関３-（２）-②）かとの質問については、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が１校、「貴校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るという目的に見合うものであった」（機関３-（２）-③）か

との質問については、２校とも「そう思う」と回答している。

いずれについても２校とも肯定的な回答をしており、評価作業の労力が目的に見合うものだったと高く評価していることがわかる。

**・評価のスケジュール**

対象校に対するアンケート調査において、「自己評価書の提出時期（６月末）は適当であった」（機関３-（３）-①）か質問したところ、「適当である」が１校、「適当でない」が１校であった。

また、「訪問調査の実施時期（10 月上旬～12 月中旬）は適当であった」（機関３-（３）-②）かとの質問については、２校とも「適当である」と回答しており、訪問調査の実施時期については適当であったと考えていることがわかる。

**②評価担当者から見た作業量・スケジュール等**

**・評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間**

評価担当者に対するアンケート調査において、「自己評価書の書面調査」（評４-（１）-①）、「訪問調査への参加」（評４-（１）-②）、「評価報告書原案の作成」（評４-（１）-③）に関する作業量及びこのために機構が設定した作業期間について、それぞれ質問した。

まず、「自己評価書の書面調査」に関して、作業量については、「大きい」とする回答が 60%（「とても大きい」50%、「大きい」10%）、「適当」が 30%、「小さい」が 10%であった。また、作業期間は７月からの約１ヶ月を設定しているが、これについて「長い」とする回答が 30%（「とても長い」20%、「長い」10%）、「適当」が 50%、「短い」が 20%であった。

次に「訪問調査への参加」では、作業量については、「大きい」とする回答が 44%（「とても大きい」22%、「大きい」22%）、「適当」が 56%であった。また、作業期間については、１校あたり２日の日程としているが、「とても長い」とする回答が 11%、「適当」が 67%、「短い」が 22%であった。

さらに、「評価結果（原案）の作成」では、作業量については、「大きい」とする回答が 30%（「とても大きい」20%、「大きい」10%）、「適当」が 50%、「小さい」が 20%であった。また、作業期間については、「長い」とする回答が 20%（「とても長い」10%、「長い」10%）、「適当」が 70%、「短い」が 10%であり、評価担当者は期間について概ね「適当」であるとしている。

**・評価に費やした労力**

評価担当者に対するアンケート調査において、評価に費やした労力が「質の保証」「改善の促進」「社会の理解と支持」という評価の３つの目的に照らして見合うもの

であったかについて質問したところ、「高等専門学校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった」（評４-（２）-①）かとの質問については、肯定的な回答が 89%（「強くそう思う」56%、「そう思う」33%）、「どちらとも言えない」が 11%、「高等専門学校の教育研究活動等の改善を促進するという目的に見合うものであった」（評４-（２）-②）かとの質問については、肯定的な回答が 89%（「強くそう思う」22%、「そう思う」が 67%）、「どちらとも言えない」が 11%、「高等専門学校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るという目的に見合うものであった」（評４-（２）-③）かとの質問については、肯定的な回答が 89%（「強くそう思う」33%、「そう思う」56%）、「どちらとも言えない」が 11%であった。

いずれについても約９割が肯定的に回答しており、おおよそ評価されていることがわかる。

**③評価と課題**

**・対象校から見た作業量・スケジュール等**

評価に費やした作業のうち、自己評価書の作成について、２校とも作業量がとても大きいとしており、作業期間については１校がとても長いと考えている。引き続き作業量を軽減するための工夫を図ることが望まれる。

訪問調査に関しては、「訪問調査時の確認事項」への対応について、作業量としては、２校とも大きいと回答し、作業期間としては、長いとする回答と短いとする回答に分かれている。

訪問調査のための事前準備については、作業量としては、２校とも大きいと回答し、期間については、長いとする回答と短いとする回答に分かれている。また、訪問調査当日の対応については、作業量については１校がとても大きいと考えており、期間については１校がとても長いと考えている。

評価に費やした労力が目的に見合うものであったかについては、教育研究活動等の「質の保証」「改善の促進」「社会の理解と支持」の３つの目的に照らしていずれも労力が目的に見合うものであると高く評価していることがわかる。

評価のスケジュールに関しては、自己評価書の提出時期については１校が適当ではないと回答しており、訪問調査の時期については２校とも適当であるとしている。

**・評価担当者から見た作業量・スケジュール等**

評価に費やした作業のうち、自己評価書の書面調査については、６割の評価担当者が作業量が大きいとしており、作業期間については半数が適当であるとしているものの、長いとする回答や短いとする回答も見られる。

また評価結果（原案）の作成については、作業期間については７割の評価担当者が適当であるとしており、概ね評価されているものの、作業量については適当であ

るとするものは半数にとどまり、大きいとする回答も一定数見られる。

また、訪問調査の参加については、作業量については評価担当者の約６割、作業期間については約７割が適当であるとしているものの、作業量が大きいとする回答や作業期間が短いとする回答も一定数見られる。

評価に費やした労力が目的に見合うものであったかについては、約９割の評価担当者が肯定的な回答をしており、おおよそ評価されているとの結果であった。

### （９）評価についての全般的な意見・感想

（１）～（８）に挙げたもののほか、評価全般について、対象校及び評価担当者から、主に次のような意見・感想があった。

**・対象校からの意見・感想**

対象校から寄せられた意見・感想においては、機構の評価を受けた感想として、「期待どおり、適切な評価をいただいた」、「厳しい評価機関である機構から認証評価を受けて合格したことは期待以上のものがあった」といった、期待どおり若しくは期待以上であったとする感想が寄せられた。

この他、「私立の学校としては財務に限っていえば国公立とはまったく異なる環境のもとでの経営であり、この点を配慮いただきたい」との意見も寄せられた。

**・評価担当者からの意見・感想**

評価担当者から寄せられた意見・感想においては、「認証評価を経験できてよかったとは思うが、本務を削って、また学生指導や課外活動をあきらめての作業は、切ないものがあった」とする感想のほか、「費やした労力は、真剣に自己評価書を作成した対象校の教職員のご苦労に報いるものでなければならなく当然と考える」、「評価者側も十分な研鑽と意思統一をはかり、『システムが機能していることを見定めて評価すること』の方がより重要ではないか」、「そろそろ定量的に横ならび評価の考え方も導入していく頃ではないだろうか」とする意見・感想が寄せられた。

## ３．総括

本報告書では、アンケート調査した項目のうち、主要な９つの事項、すなわち、「（１）評価基準及び観点について」「（２）評価担当者に対する研修について」「（３）自己評価書について」「（４）認証評価説明会・自己評価担当者等に対する研修会について」「（５）書面調査・訪問調査について」「（６）評価結果（評価報告書）について」「（７）評価を受けたことによる効果・影響について」「（８）評価の作業量・スケジュール等について」「（９）評価についての全般的な意見・感想」について、整理・分類し、分析・評価した結果をまとめている。以下にその概要を述べ総括する。

（１）評価基準及び観点の構成や内容については、対象校及び評価担当者双方から、高等専門学校の教育研究活動等の「質の保証」「改善の促進」という評価それぞれの目的に照らして適切であると評価されている。教育活動を中心に設定していることについてもその適切性が認められている。一方、教育研究活動等の「社会からの理解と支持」という目的に対しては、対象校及び評価担当者からおおよそ適切であると評価されている。

また、具体の評価基準及び観点については、評価担当者から評価しにくい評価基準又は観点があったとする回答が見られた。評価担当者からは評価しにくい評価基準又は観点として、インターンシップの取扱などについて意見があった。今後も、説明会、研修会等で詳細かつ明快に説明していくとともに、評価基準及び観点の適切性を引き続き検証していくことが必要と思われる。

（２）評価担当者に対する研修については、研修の内容について、説明内容や配付資料が理解しやすく、役立ったとの回答が多数であり、有効であったことが窺える。なお、書面調査のシミュレーション及び研修時間の長さについては、必ずしも十分に評価されてはいないことから、引き続き研修方法の工夫が望まれる。

（３）自己評価書については、記述の適切性、わかりやすさ等について、対象校と評価担当者の間で認識の差があり、対象校は概ね満足しているが、評価担当者は対象校ほど評価していない。なお、評価担当者からは、項目に沿った記述をしていない、具体的な表現に欠ける、内容が省略しすぎてわかりづらいなどといった意見があった。

自己評価書の添付資料については、対象校はこれまで蓄積してきたもので十分対応できたとしているものの、評価担当者からは必要な根拠資料が引用・添付されていないとする回答が見られる。このような状況は、対象校が評価の経験を積み重ねることにより、徐々に解消されてはきているが、引き続き、評価基準及び観点に関する対象校の理解をより一層深めることや、特に自己評価書作成に当たっての留意点について

説明を工夫することが必要である。

自己評価書の文字数については、十分な量であったと回答した対象校は無いが、基準間での文字数の調整を弾力的に認めることとしていることもあり、今後の説明会等での理解の促進など引き続き検討することが望まれる。

（４）認証評価説明会・自己評価担当者等に対する研修会については、内容は総じて理解しやすく役立ったとの評価がなされている。また、資料についても、説明会、研修会の配付資料及び自己評価実施要項等の冊子ともに理解しやすく役立ったとの評価がなされている。

（５）書面調査については、評価担当者は、機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすく、参考資料も自己評価書及び添付資料で十分であるとしている。対象校では、書面調査の後、当該対象校に対して送付される「書面調査による分析状況」、「訪問調査時の確認事項」の内容について適切であるとしている。

また、訪問調査の実施内容及び訪問調査時の機構の評価担当者の人数・構成については、対象校及び評価担当者ともに適切であるとしている。

自由記述では、訪問調査の日程について、調査項目の変更なしに２日間の日程に見直しているところであるが、評価担当者から、３日間方式の方がきめ細かな正しい評価ができるとの意見も出されており、引き続き対象校の負担を軽減するとともに、評価担当者が十分に作業できるよう効率的な方法について工夫していくことが望まれる。

（６）評価結果（評価報告書）については、対象校からは、内容は総じて適切であり、それぞれの教育研究活動等の質の保証、改善の促進、社会からの理解・支持のために十分なものであるとともに、各対象校の目的、実態、規模にも考慮されていたとされており、その記述についても分かりやすいと評価されている。

一方、評価担当者からは、書面調査、訪問調査の内容が評価結果に反映されたと評価されており、評価報告書の構成、結果の表し方、評価結果の分量についても適切であったとされている。

また、評価結果の公表については、マスメディア等の報道について十分でないとされており、評価報告書の内容が広く適切に報道されるよう、引き続き工夫していく必要がある。

（７）対象校が自己評価を行ったことによる効果・影響については、教育研究活動等の状況や課題の把握に役立ち、教育研究活動等の改善の促進につながるなどの効果・影響があった。また、教職員の意識への効果・影響については、教育研究活動等の組織的運営、自己評価の重要性の浸透、各教員の教育研究活動等への取組の意識、評価

に関する知識や技術の向上、対象校のマネジメントの改善促進、将来計画の策定への有用性についてそれぞれ効果・影響があったとされている。

対象校における評価結果を受けたことによる効果・影響については、教育研究活動等の状況や今後の課題の把握に役立ち、教育研究活動等の改善促進、質保証に効果・影響があった。一方、教職員の意識への効果・影響については、自己評価、教育研究活動等の組織的運営の重要性、評価に関する知識や技術の向上、教育研究への取組の意識向上、評価結果の内容の浸透、それぞれに効果・影響があったことがわかる。

また、マネジメントの改善促進、個性的な取組の促進、将来計画の策定への有用性に関しても効果・影響があったと考えられている。

学生（今後入学する学生を含む）及び社会の理解と支持への効果・影響については、理解が得られていると対象校は考えていることがわかる。

評価結果の活用については、各対象校が教育研究活動等の改善・向上に取り組んでいることがわかる。機構としても引き続き各対象校における評価結果の活用を促進していくことが重要である。

（８）評価の作業量・スケジュール等については、対象校では、特に自己評価書の作成に係る負担感が大きく、評価担当者では、特に自己評価書の書面調査の作業量が大きいと感じていることがわかる。引き続き、対象校及び評価担当者の負担軽減、効率化のための工夫が望まれる。

評価作業に費やした労力が目的に見合うものであったかについては、対象校及び評価担当者ともに教育研究活動等の「質の保証」「改善の促進」「社会の理解と支持」の３つの目的に照らしていずれも労力が目的に見合うものであると評価していることがわかる。

（９）評価についての全般的な意見・感想については、対象校から、機構の評価を受けた感想として、厳しい評価機関である機構から認証評価を受けて合格したことは期待以上のものがあったなど、期待どおり若しくは期待以上であったとする感想が寄せられた。また、評価担当者からは、機構の行う評価の今後の改善努力を期待する意見が寄せられた。

今回の検証によって、高等教育機関における評価への積極的な取組、改善に向けた努力、そして成果が確認された。一方で、評価作業の負担軽減を図るとともに、各機関の取組を適切に社会に示すことによる理解の促進と支持に関しては、さらなる改善の必要性も示唆された。

# 参　考　資　料

**参考資料　目次**

**１　認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）【対象校】**

**２　認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）【評価担当者】**

**３　認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【対象校】**

**４　認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【評価担当者】**

**５　認証評価に関する検証のためのアンケート【対象校】**

**６　認証評価に関する検証のためのアンケート【評価担当者】**

※　なお、アンケートの自由記述については、原則、原文をそのまま掲載した。（ただし、具体の高等専門学校や個人等が特定されるものについては、特定できないような表現に改めた上で掲載した。）

認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）
【対象校】（高等専門学校）

1．評価基準及び観点について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 機関1- | ① 評価基準及び観点の構成や内容は、貴校の教育研究活動等の質を保証するために適切であった | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関1- | ② 評価基準及び観点の構成や内容は、貴校の教育研究活動等の改善を促進するために適切であった | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 50% | 50% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関1- | ③ 評価基準及び観点の構成や内容は、貴校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 50% | 50% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関1- | ④ 評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることは適切であった | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | 100% |

【2：ある 1：ない】

| | | 2 | 1 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| 機関1- | ⑤ 自己評価しにくい評価基準又は観点があった | 0 | 2 | 2 |
| | | 0% | 100% | 100% |
| 機関1- | ⑥ 内容が重複する評価基準又は観点があった | 1 | 1 | 2 |
| | | 50% | 50% | 100% |

2．評価の方法及び内容について

（1）自己評価について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 機関2-(1)- | ① 評価基準及び観点に基づき、適切に自己評価を行うことができた | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 50% | 50% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関2-(1)- | ② 自己評価書に添付する資料は、既に蓄積していたもので十分対応することができた | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 50% | 50% | 0% | 0% | 0% | 100% |

【2：迷った 1：迷っていない】

| | | 2 | 1 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| 機関2-(1)- | ③ 自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った | 1 | 1 | 2 |
| | | 50% | 50% | 100% |

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 機関2-(1)- | ④ 貴校の総合的な状況が広く社会等の理解を得るために、わかりやすい自己評価書を作成することができた | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 2 |
| | | 0% | 50% | 50% | 0% | 0% | 100% |
| 機関2-(1)- | ⑤ 自己評価書の完成度は満足できるものであった | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 |
| | | 50% | 0% | 50% | 0% | 0% | 100% |
| 機関2-(1)- | ⑥ 文字数制限を設けているが、文字数は自己評価書を作成する上で十分な量であった | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 2 |
| | | 0% | 0% | 50% | 50% | 0% | 100% |

【2：参考にした 1：参考にしなかった】

| | | 2 | 1 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| 機関2-(1)- | ⑦ 自己評価書の作成にあたって、すでに機構の認証評価を受けた他大学の自己評価書を参考にした | 2 | 0 | 2 |
| | | 100% | 0% | 100% |

（2）訪問調査等について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 機関2-(2)- | ① 訪問調査の前に提示された、「書面調査による分析状況」の内容は適切であった | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関2-(2)- | ② 訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関2-(2)- | ③ 訪問調査時に機構の評価担当者（事務担当者を除く）が質問した内容は適切であった | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 50% | 50% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関2-(2)- | ④ 訪問調査の実施内容（高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）は適切であった | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関2-(2)- | ⑤ 訪問調査では、機構の評価担当者との間で、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関2-(2)- | ⑥ 訪問調査時の機構の評価担当者（事務担当者を除く）の人数や構成は適切であった | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 50% | 50% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関2-(2)- | ⑦ 訪問調査時の機構の評価担当者は十分に研修を受けていたと思う | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | 100% |

（3）意見の申立てについて

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 機関2-(3)- | ① 意見の申立ての実施方法及びスケジュールは適切であった | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関2-(3)- | ② 「意見の申立ての内容及びその対応」を評価報告書に掲載したことは適切であった | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関2-(3)- | ③ 貴校からの意見の申立てに対する機構の対応は適切であった | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | － |
| | | － | － | － | － | － | － |

3. 評価の作業量、スケジュール等について

（1）評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間について

＜作業量＞

【5：とても大きい～3：適当～1：とても小さい】

| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 機関3-(1)- | ① 自己評価書の作成 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関3-(1)- | ② 訪問調査の前に提示された「訪問調査時の確認事項」への対応 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 0% | 100% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関3-(1)- | ③ 訪問調査のための事前準備 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 0% | 100% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関3-(1)- | ④ 訪問調査当日の対応 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 |
| | | 50% | 0% | 50% | 0% | 0% | 100% |
| 機関3-(1)- | ⑤ 意見の申立て | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 |
| | | 50% | 0% | 50% | 0% | 0% | 100% |

＜作業期間＞

【5：とても長い～3：適当～1：とても短い】

| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 機関3-(1)- | ① 自己評価書の作成 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 |
| | | 50% | 0% | 50% | 0% | 0% | 100% |
| 機関3-(1)- | ② 訪問調査の前に提示された「訪問調査時の確認事項」への対応 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 2 |
| | | 0% | 50% | 0% | 50% | 0% | 100% |
| 機関3-(1)- | ③ 訪問調査のための事前準備 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 2 |
| | | 0% | 50% | 0% | 50% | 0% | 100% |
| 機関3-(1)- | ④ 訪問調査当日の対応 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 |
| | | 50% | 0% | 50% | 0% | 0% | 100% |
| 機関3-(1)- | ⑤ 意見の申立て | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 |
| | | 50% | 0% | 50% | 0% | 0% | 100% |

（2）評価作業に費やした労力について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 機関3-(2)- | ① 評価作業に費やした労力は、貴校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 0% | 100% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関3-(2)- | ② 評価作業に費やした労力は、貴校の教育研究活動等の改善を進めるという目的に見合うものであった | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 50% | 50% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関3-(2)- | ③ 評価作業に費やした労力は、貴校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るという目的に見合うものであった | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 0% | 100% | 0% | 0% | 0% | 100% |

（3）評価のスケジュールについて

【2：適当　1：適当でない】

| | | 2 | 1 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| 機関3-(3)- | ① 自己評価書の提出時期(6月末)は適当であった | 1 | 1 | 2 |
| | | 50% | 50% | 100% |
| 機関3-(3)- | ② 訪問調査の実施時期(10月上旬～12月中旬)は適当であった | 2 | 0 | 2 |
| | | 100% | 0% | 100% |

4. 説明会・研修会等について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 機関4- | ① 説明会の配付資料は理解しやすかった | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関4- | ② 説明会の内容は理解しやすかった | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関4- | ③ 説明会の内容は役立った | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関4- | ④ 自己評価担当者等に対する研修会の配布資料は理解しやすかった | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 50% | 50% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関4- | ⑤ 自己評価担当者等に対する研修会の内容は理解しやすかった | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関4- | ⑥ 自己評価担当者等に対する研修会の内容は役立った | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関4- | ⑦ 機構が配付している自己評価実施要項等の冊子は役立った | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関4- | ⑧ 機構が行った訪問説明は役立った | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関4- | ⑨ 説明会、研修会等における機構の事務担当者の対応(質問等に対する対応)は適切であった | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | 100% |

5. 評価結果(評価報告書)について

(1)評価報告書の内容等について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 機関5-(1)- | ① 評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等の質の保証をするために十分なものであった | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関5-(1)- | ② 評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等の改善に役立つものであった | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関5-(1)- | ③ 評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等について社会の理解と支持を得られることを支援・促進するものであった | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関5-(1)- | ④ 評価報告書の内容は、貴校の目的に照らし適切なものであった | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関5-(1)- | ⑤ 評価報告書の内容は、貴校の実態に即したものであった | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関5-(1)- | ⑥ 評価報告書の内容は、貴校の規模等(資源・制度など)を考慮したものであった | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関5-(1)- | ⑦ 評価報告書の内容から、教育研究活動等に関して新たな視点が得られた | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 50% | 50% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関5-(1)- | ⑧ 評価報告書の構成及び内容は分かりやすいものであった | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関5-(1)- | ⑨ 総じて、機構による評価報告書の内容は適切であった | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | 100% |

(2)自己評価書及び評価報告書の公表について

【2：している　1：していない】

| | | 2 | 1 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| 機関5-(2)- | ① 今回の評価のために作成した自己評価書をウェブサイトなどで公表している | 1 | 1 | 2 |
| | | 50% | 50% | 100% |
| 機関5-(2)- | ② 評価報告書をウェブサイトなどで公表している | 2 | 0 | 2 |
| | | 100% | 0% | 100% |

(3)評価結果に関するマスメディア等の報道について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 機関5-(3)- | ① 評価結果に関して、マスメディア等から適切な報道がなされた | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| | | 0% | 0% | 0% | 0% | 100% | 100% |

6. 評価を受けたことによる効果・影響について

（1）自己評価を行ったことによって、次のような効果・影響がありましたか

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 機関6-(1)- | ① 貴校の教育研究活動等について全般的に把握することができた | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関6-(1)- | ② 貴校の教育研究活動等の今後の課題を把握することができた | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関6-(1)- | ③ 教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透した | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 50% | 50% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関6-(1)- | ④ 各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上した | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 0% | 100% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関6-(1)- | ⑤ 貴校の教育研究活動等の改善を促進した | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 50% | 50% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関6-(1)- | ⑥ 貴校の将来計画の策定に役立った | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 50% | 50% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関6-(1)- | ⑦ 貴校のマネジメントの改善を促進した | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関6-(1)- | ⑧ 貴校の個性的な取組を促進した | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関6-(1)- | ⑨ 自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透した | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 50% | 50% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関6-(1)- | ⑩ 評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上した | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 0% | 100% | 0% | 0% | 0% | 100% |

（2）機構の評価結果を受けて、次のような効果・影響があると思いますか

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 機関6-(2)- | ① 貴校の教育研究活動等について全般的に把握することができる | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関6-(2)- | ② 貴校の教育研究活動等の今後の課題を把握することができる | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 50% | 50% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関6-(2)- | ③ 教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透する | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 50% | 50% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関6-(2)- | ④ 各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上する | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 0% | 100% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関6-(2)- | ⑤ 貴校の教育研究活動等の改善を促進する | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 50% | 50% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関6-(2)- | ⑥ 貴校の将来計画の策定に役立つ | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 50% | 50% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関6-(2)- | ⑦ 貴校のマネジメントの改善を促進する | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関6-(2)- | ⑧ 貴校の個性的な取組を促進する | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関6-(2)- | ⑨ 自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透する | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 0% | 100% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関6-(2)- | ⑩ 教職員に評価結果の内容が浸透する | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 0% | 100% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関6-(2)- | ⑪ 評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上する | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 50% | 50% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関6-(2)- | ⑫ 対象校の教育研究活動等の質が保証される | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 50% | 50% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関6-(2)- | ⑬ 学生（今後入学する学生を含む）の理解と支持が得られる | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 0% | 100% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関6-(2)- | ⑭ 広く社会の理解と支持が得られる | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 50% | 50% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 機関6-(2)- | ⑮ 他大学の評価結果から優れた取組を参考にする | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 |
| | | 50% | 0% | 50% | 0% | 0% | 100% |

7. 評価結果の活用について

（1）今回の評価（機構の評価結果だけでなく、貴校における自己評価及びその後の評価の過程で得られた知見を含む。）を契機として課題として認識し、何らかの変更･改善を予定している事項（または実施済みの事項）について

（省略）

（2）今後、次のような事柄に評価報告書を用いる予定について（複数回答可）

1　貴校の広報誌に評価結果を掲載する。
2　貴校のウェブサイトで評価結果を公表する。
3　資金獲得のための申請書に記載する。
4　学生募集の際に用いる。
5　共同研究等の相手先企業を募集するパンフレット等に用いる。
6　その他（具体的に）
　いまのところ検討中です。

| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |

認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）
【評価担当者】（高等専門学校）

1. 評価基準及び観点について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 計 | 平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 評1- | ① 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の質を保証するために適切であった | 5 | 4 | 1 | 0 | 0 | 10 | 4.40 |
| | | 50% | 40% | 10% | 0% | 0% | 100% | |
| 評1- | ② 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するために適切であった | 3 | 7 | 0 | 0 | 0 | 10 | 4.30 |
| | | 30% | 70% | 0% | 0% | 0% | 100% | |
| 評1- | ③ 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった | 3 | 5 | 2 | 0 | 0 | 10 | 4.10 |
| | | 30% | 50% | 20% | 0% | 0% | 100% | |
| 評1- | ④ 評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることは適切であった | 5 | 5 | 0 | 0 | 0 | 10 | 4.50 |
| | | 50% | 50% | 0% | 0% | 0% | 100% | |

【2：ある 1：ない】

| | | 2 | 1 | 計 | 平均 |
|---|---|---|---|---|---|
| 評1- | ⑤ 評価しにくい評価基準又は観点があった | 4 | 6 | 10 | 1.40 |
| | | 40% | 60% | 100% | |
| 評1- | ⑥ 内容が重複する評価基準又は観点があった | 2 | 8 | 10 | 1.20 |
| | | 20% | 80% | 100% | |

2. 評価の方法及び内容・結果について

（1）自己評価書について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 計 | 平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 評2-(1)- | ① 対象校の自己評価書は理解しやすかった | 1 | 3 | 4 | 2 | 0 | 10 | 3.30 |
| | | 10% | 30% | 40% | 20% | 0% | 100% | |
| 評2-(1)- | ② 自己評価書には評価基準及び観点の内容が適切に記述されていた | 2 | 2 | 3 | 3 | 0 | 10 | 3.30 |
| | | 20% | 20% | 30% | 30% | 0% | 100% | |
| 評2-(1)- | ③ 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた | 0 | 1 | 7 | 2 | 0 | 10 | 2.90 |
| | | 0% | 10% | 70% | 20% | 0% | 100% | |

（2）書面調査について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 計 | 平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 評2-(1)- | ④ 機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった | 4 | 4 | 2 | 0 | 0 | 10 | 4.20 |
| | | 40% | 40% | 20% | 0% | 0% | 100% | |
| 評2-(1)- | ⑤ 書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報（客観的データ等）があればよかった | 0 | 2 | 3 | 3 | 2 | 10 | 2.50 |
| | | 0% | 20% | 30% | 30% | 20% | 100% | |

（3）訪問調査について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 計 | 平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 評2-(2)- | ① 「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった | 2 | 6 | 2 | 0 | 0 | 10 | 4.00 |
| | | 20% | 60% | 20% | 0% | 0% | 100% | |
| 評2-(2)- | ② 訪問調査によって不明な点を十分に確認することができた | 3 | 6 | 1 | 0 | 0 | 10 | 4.20 |
| | | 30% | 60% | 10% | 0% | 0% | 100% | |
| 評2-(2)- | ③ 訪問調査の実施内容（高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）は適切であった | 7 | 2 | 0 | 0 | 0 | 9 | 4.78 |
| | | 78% | 22% | 0% | 0% | 0% | 100% | |
| 評2-(2)- | ④ 訪問調査では、対象校と、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた | 3 | 6 | 0 | 0 | 0 | 9 | 4.33 |
| | | 33% | 67% | 0% | 0% | 0% | 100% | |
| 評2-(2)- | ⑤ 訪問調査時の機構の評価担当者（事務担当者を除く）の人数や構成は適切であった | 3 | 6 | 0 | 0 | 0 | 9 | 4.33 |
| | | 33% | 67% | 0% | 0% | 0% | 100% | |
| 評2-(2)- | ⑥ 訪問調査における機構の事務担当者の対応は適切であった | 6 | 3 | 0 | 0 | 0 | 9 | 4.67 |
| | | 67% | 33% | 0% | 0% | 0% | 100% | |

（4）評価結果について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 計 | 平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 評2-(3)- | ① 自らが担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された | 4 | 6 | 0 | 0 | 0 | 10 | 4.40 |
| | | 40% | 60% | 0% | 0% | 0% | 100% | |
| 評2-(3)- | ② 基準1から基準11の評価で、基準を満たしているかどうかの判断を示すという方法は適切であった | 4 | 4 | 2 | 0 | 0 | 10 | 4.20 |
| | | 40% | 40% | 20% | 0% | 0% | 100% | |
| 評2-(3)- | ③ 評価結果全体としての分量は適切であった | 3 | 5 | 2 | 0 | 0 | 10 | 4.10 |
| | | 30% | 50% | 20% | 0% | 0% | 100% | |
| 評2-(3)- | ④ 評価報告書の最初に、全体の評価結果と併せて対象校の「主な優れた点」、「主な改善を要する点」を記述するという形式は適切であった | 3 | 6 | 1 | 0 | 0 | 10 | 4.20 |
| | | 30% | 60% | 10% | 0% | 0% | 100% | |

3. 研修について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 計 | 平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 評3- | ① 研修の配付資料は理解しやすかった | 2 | 3 | 1 | 0 | 0 | 6 | 4.17 |
| | | 33% | 50% | 17% | 0% | 0% | 100% | |
| 評3- | ② 研修の説明内容は理解しやすかった | 2 | 3 | 1 | 0 | 0 | 6 | 4.17 |
| | | 33% | 50% | 17% | 0% | 0% | 100% | |
| 評3- | ③ 研修の内容は役立った | 2 | 4 | 0 | 0 | 0 | 6 | 4.33 |
| | | 33% | 67% | 0% | 0% | 0% | 100% | |
| 評3- | ④ 書面調査のシミュレーションは役立った | 3 | 0 | 3 | 0 | 0 | 6 | 4.00 |
| | | 50% | 0% | 50% | 0% | 0% | 100% | |
| 評3- | ⑤ 研修に費やした時間の長さは適切であった | 2 | 2 | 2 | 0 | 0 | 6 | 4.00 |
| | | 34% | 33% | 33% | 0% | 0% | 100% | |

4. 評価の作業量、スケジュール等について

（1）評価に費やした作業量及び機構の設定した作業期間について

＜作業量＞

【5：とても大きい～3：適当～1：とても小さい】

| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 計 | 平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 評4-(1)- | ① 自己評価書の書面調査 | 5 | 1 | 3 | 1 | 0 | 10 | 4.00 |
| | | 50% | 10% | 30% | 10% | 0% | 100% | |
| 評4-(1)- | ② 訪問調査への参加 | 2 | 2 | 5 | 0 | 0 | 9 | 3.67 |
| | | 22% | 22% | 56% | 0% | 0% | 100% | |
| 評4-(1)- | ③ 評価結果（原案）の作成 | 2 | 1 | 5 | 2 | 0 | 10 | 3.30 |
| | | 20% | 10% | 50% | 20% | 0% | 100% | |

＜作業期間＞

【5：とても長い～3：適当～1：とても短い】

| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 計 | 平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 評4-(1)- | ① 自己評価書の書面調査 | 2 | 1 | 5 | 2 | 0 | 10 | 3.30 |
| | | 20% | 10% | 50% | 20% | 0% | 100% | |
| 評4-(1)- | ② 訪問調査への参加 | 1 | 0 | 6 | 2 | 0 | 9 | 3.00 |
| | | 11% | 0% | 67% | 22% | 0% | 100% | |
| 評4-(1)- | ③ 評価結果（原案）の作成 | 1 | 1 | 7 | 1 | 0 | 10 | 3.20 |
| | | 10% | 10% | 70% | 10% | 0% | 100% | |

（2）評価作業に費やした労力について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 計 | 平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 評4-(2)- | ① 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった | 5 | 3 | 1 | 0 | 0 | 9 | 4.44 |
| | | 56% | 33% | 11% | 0% | 0% | 100% | |
| 評4-(2)- | ② 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するという目的に見合うものであった | 2 | 6 | 1 | 0 | 0 | 9 | 4.11 |
| | | 22% | 67% | 11% | 0% | 0% | 100% | |
| 評4-(2)- | ③ 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るという目的に見合うものであった | 3 | 5 | 1 | 0 | 0 | 9 | 4.22 |
| | | 33% | 56% | 11% | 0% | 0% | 100% | |

（3）評価作業にかかった時間数について

| | | |
|---|---|---|
| 評4-(3)- | ① 自己評価書の書面調査 | およそ 35 時間 |
| 評4-(3)- | ② 訪問調査の準備 | およそ 7 時間 |
| 評4-(3)- | ③ 評価結果（原案）の作成 | およそ 9 時間 |

5. 評価部会等の運営について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 計 | 平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 評5- | ① 評価部会、あるいは専門部会の委員の人数や構成は適切であった | 5 | 3 | 1 | 0 | 0 | 9 | 4.44 |
| | | 56% | 33% | 11% | 0% | 0% | 100% | |
| 評5- | ② 部会運営は円滑であった | 6 | 3 | 0 | 0 | 0 | 9 | 4.67 |
| | | 67% | 33% | 0% | 0% | 0% | 100% | |

6. 評価全般について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 計 | 平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 評6- | ① 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の質が保証されると思う | 4 | 4 | 1 | 0 | 0 | 9 | 4.33 |
| | | 44% | 44% | 12% | 0% | 0% | 100% | |
| 評6- | ② 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の改善が促進されると思う | 4 | 4 | 1 | 0 | 0 | 9 | 4.33 |
| | | 44% | 44% | 12% | 0% | 0% | 100% | |
| 評6- | ③ 今回の評価によって社会の理解と支持が支援・促進されると思う | 2 | 6 | 1 | 0 | 0 | 9 | 4.11 |
| | | 22% | 67% | 11% | 0% | 0% | 100% | |
| 評6- | ④ 自己の専門知識・能力を評価作業・評価結果に活かすことができた | 3 | 4 | 2 | 0 | 0 | 9 | 4.11 |
| | | 33% | 45% | 22% | 0% | 0% | 100% | |
| 評6- | ⑤ 今回の評価作業で得た知識を自身の所属組織の運営等に活かすことができた | 4 | 4 | 0 | 1 | 0 | 9 | 4.22 |
| | | 44% | 44% | 0% | 12% | 0% | 100% | |
| 評6- | ⑥ 総じて機構の認証評価を経験できてよかった | 6 | 3 | 0 | 0 | 0 | 9 | 4.67 |
| | | 67% | 33% | 0% | 0% | 0% | 100% | |

## 認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【対象校】
## （高等専門学校）

### １．評価基準及び観点について

**⑥重複していると思われる評価基準又は観点について**

・　基準９の教育改善活動と基準 11 の管理運営にあって本校のマネジメントシステムが両方にからみ教育面からの記述と管理面からの記述に多少重複、混合がみられた。しかしそれはマネジメントシステムを教育面からみたものを基準９とし、人事を含む管理面から見たものが基準 11 と切り分けることで解決した。

**○評価基準及び観点についての意見、感想など**

・　基準１については基本理念であるので、建学の精神から説き起こして理念、目的、目標を明確化することに寄与した。特に本科と専攻科の目的の相違をはっきりと提示できた。

基準２については教育組織についてなので特に過不足はなかった。

基準３は教職員の構成にかかわる部分で、法定員数の理解に誤解があったが指摘されたので問題はなかった。しかし今後の高専の高度化の方向にあわせて教員の資質は厳格化されると思うのでその対応が重要であると認識している。

基準４については学生の受け入れであるが定員の問題は相手のある話であって現状は容易な状況ではない。努力はするものの定員削減も視野にいれざるを得ないかもしれない。受け入れ方針（アドミッションポリシー）はその概念が定着しているとはいえないので周知、徹底が大変であった。また定員未達の状況の中でポリシーに対応した学生を選抜する困難さも確認した。

基準５については他の基準とくらべて記述量が多くなってご迷惑をかけたが、これらについては高専の教育内容全般にかかわることであってやむを得ない状況であった。

基準６、基準７、基準８については満足のいく記述ができた。

基準９、11 は前述したとおり、かなり記述に苦労した部分があった。

基準 10 は財務で、資料不足も指示されたが補正資料、閲覧資料により十分説明できた。しかし基本的に工学単科である私学高専の経営は困難な状況であることに変わりはない。

### ２．評価の方法及び内容について

#### （１）自己評価について

**③自己評価書に添付する資料で迷った点について**

・　資料の全部を提示するのか、一部でよいのか迷った。全部を提示すれば自己評価書がいまの３冊程度の量になるので、本校では１つの学科を中心に掲載したが、「全学科で実施されていますか」等の質問をいただき困惑した。結果、資料のすべては実地調査で示すとの回答をした。

**⑥自己評価書の文字数制限に関し、必要と思われる文字数について**

・　いまの字数制限の 1.5 倍は必要と思われます。

・　基準によって記述する内容のボリュームに差異があり、同じ文字数制限では難しい部分がある。実質は基準によって過不足があってもよいので、支障はなかった。

**○自己評価についての意見、感想など**

・　自己評価については平成 14 年度から外部評価、平成 16 年度自己点検評価を随時行ってきたが、それらが全基準について有効かつ完了していたわけではなく、結果的に今回の自己評価書作成がその統括的自己評価の機会となった。そのために資料は確保したものの調査、分析に十分でない基準も見受けられた。やはり毎年の自己点検評価を確実に行うことがよりよい自己評価書の作成と受審につながると思った。

（２）訪問調査等について

〇訪問調査等についての意見、感想など

・　筆者が前年他高専の評価作業、訪問調査を経験したことが大変有効に作用したと実感している。訪問調査の主査をはじめ、専門委員、事務方の機構職員の皆さんの親切な対応、配慮に特に感謝している。前年の準備段階から評価、受審が適切に行われるようにご支援いただけた事が合格に結びついたと確信している。

（３）意見の申立てについて

③機構の対応で適切でなかった点について

・　意見の申立てはしなかったが、「自己評価書の不鮮明な資料を修正下さい」との指示をいただいたので、CD-Rにて報告させていただいたが、３月 30 日に公表されたホームページを見ると、修正されていなかった。これらについて、電話で事務局に連絡させていただいて、３月 31 日にはすべて修正いただいた。

３．評価の作業量、スケジュール等について

（１）評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間について

〇評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間についての意見、感想など

・　自己評価書作成の作業量が多いのは当然として、先にも述べたとおり、平常年の自己点検作業（資料整備、点検作業、評価作業など）が重要であろう。

　訪問調査時の確認事項については提示されてから提出までの期間は短くその作業は大変であった。訪問調査関連については機構職員と打ち合わせ、十分準備を行えたので当日もその対応に困ることはなかった。

（２）評価作業に費やした労力

〇評価作業に費やした労力についての意見、感想など

・　評価作業に費やした労力が報われるかは今後、この結果を受けて平常年の自己点検評価作業をどうすすめるかによると思う。質の保証についていえば少なくとも基準６、７、８、９については自信をもっていえるが、基準３、４、５については改善の指摘を受けたわけではないが今後に課題を残していることを自覚している。

　いずれにしてもこの結果を有効に生かせるかどうかが次回に受審するまでの大きな課題であり、それを通して改善ができるかどうかにかかっている。

（３）評価のスケジュールについて

〇評価のスケジュールについての意見、感想など

・　夏休みを含めた８月末がよい。熟読する時間がなかった。

・　自己評価書の提出は提出年度の情報が確定するのが５月末であるから６月末は妥当、その後の訪問調査までの準備期間を考慮するとこの時期については妥当であろう。

４．説明会・研修会等について

〇説明会・研修会等についての意見、感想など

・　事前研修、当校研修などを通して、当初の全教員への周知にあたっては予期しない反応もあったが法律に基づく、学校改善を目的とした評価作業ということで理解を得ることができた。これ以前にマネジメントシステムの学内研修を受けて理解できなかった PDCA サイクルの概念がここでようやく身に着けることができた。若い教員には当然のことであっても評価になれないベテラン教員は苦労したと察する。そのためにもこのような研修、説明会は十分行う必要があるのだろう。

　今後２回目のサイクルに入る評価作業で基準の見直しも行われると思うので、その際は変更点の説明、研修も必要であろう。

５．評価結果（評価報告書）について

（１）評価報告書の内容等について

〇評価結果（評価報告書）についての意見、感想など

・　評価結果については我々が予想していた以上の「優れた点」の指摘を受け、「貴高専が持っている優れた点にもっと自信をもって」といわれたことは大変うれしいことであった。日ごろ国立高専の優れた成果を目の当たりにしている我々としては少なくとも教育面ではその成果を挙げていると確信できた。

「改善すべき点」についてもそこらじゅう改善すべきといわれることを覚悟していたが、それを「自覚していますよね」ということで厳しい指摘にはなかった。そのことがかえって今後に大きな負荷がかけられたと感じている。

自己評価書は機構でWeb公開され、評価結果についても機構にリンクして公開する予定である。またマスコミについては高専２校だったので大学のようには関心はもたれなかったのではないだろうか。いずれ、どこかで高専は全校合格をアピールする必要が生じるのではないか。

６．評価を受けたことによる効果・影響について

（１）自己評価を行ったことによる効果・影響に関連しての意見、感想など

・　これは明確に何かが変わったといえるかどうか難しい。年月を経ながら学校経営者、管理職、一般教職員、学生と各レベルごとに会得していくものではないか。すくなくとも資料を収集すること、事案について調査分析すること、実行したのち効果判定を行うこと、特にそれに基づいて改善を試みることというPDCAの基本概念を全教職員が知ることができたのは効果といえるだろう。

（２）機構の評価結果を受けたことによる効果・影響に関連しての意見、感想など

・　貴機関の審査に合格したことは自信をもってもいいこととは感じている。この評価報告を受けて次の改善段階に結びつけることが最も肝要なことと考えている。

７．評価結果の活用について

（１）今回の評価を契機として、何らかの変更・改善を予定しているもの（または実施済みのもの）について

〇主要な変更・改善事項及び変更・改善の際の機構の評価（機構の評価報告書の内容だけでなく、対象校による自己評価書の作成や、評価の過程で得られた知見を含む）の参考度ついて

※参考度：【５：非常に参考になった～３：参考となった～１：あまり参考とならなかった】

（基準４）「学生の受入」

・　専攻科運営プロジェクトを発足し、この問題の解決を図る【３】

（基準５）「教育内容及び方法」

・　目下、専攻科長を中心に利用促進をはかる方向で検討中【３】

・　全校FDを開催し、シラバス改善の研修を行った【４】

（基準７）「学生支援等」

・　担任、学生主事室、市全体のカウンセラーシステムの利用等を促進する方向で臨んでいる。【３】

（基準10）「財務」

・　資金収支均衡を達成し、消費収支改善を目指す。科研費管理規程整備は完了した【３】

８．評価の実施体制について

〇評価の実施体制について、対象校が行っている方策・工夫等、その方策・工夫等について良かった点、悪かった

**点等、その他感想について**

・　平成 21 年度組織改組

認証評価本部を改組して自己点検評価本部を置き、本部長（前教務主事）のもと平常年の自己点検評価を推進する組織を設置した。このもとに自己点検評価委員会が構成され、学内各部署から代表が選出されて運営される。他に資料収集、授業評価支援のために学事資料室がおかれ専任職員により自己点検評価を支援する体制をつくった。

## ９．その他

**○認証評価機関として機構を選択した理由、実際に評価を受けて期待どおりだったかどうかについて**

・　期待どおり、適切な評価をいただきました。

・　他に選択肢はなかった。

厳しい評価機関である貴機関から認証評価を受けて合格したことは期待以上のものがあった。

**○その他、当機構の行う評価についての意見等**

・　自己評価書の字数制限は、もう少し緩和していただきたい。説明不足になった点が多々あった。複数の学科を有している高専で一つの自己評価書を作成する場合、資料としてどこの科を優先して提示したらよいのか迷う。一学科を提示して、他はすべて同じとしてよいのか、常に悩んで自己評価書を作成しました。

・　私立の学校としては財務に限っていえば国公立とはまったく異なる環境のもとでの経営であり、この点を配慮いただきたいと感じている。

## 認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【評価担当者】
## （高等専門学校）

### １．評価基準及び観点について

**⑤評価しにくかった評価基準又は観点について**

（基準５）「教育内容及び方法」

・　５－２－③の創造性を育む教育方法（ＰＢＬなど）の工夫や、インターンシップの活用が行なわれているか。において、創造性を育む教育方法として、学内のＰＢＬの授業の工夫や改善の取り組みと、外部企業の諸事情によって実施されるインターンシップとは異なると考える。また、インターンシップは必ずしも必修でないので（全員参加することが望ましいが)、その評価を別項目として表すことにより、インターンシップを積極的に取り入れることへの改善につながるのではないかと思う。

（基準 10）「財務」

・　10－１－②私立学校の場合、校風が難しい。

・　10－２－⑤適切な資源配分かどうかを、何で判断するか？

（その他）

・　全般的ではあるが、システムは整備され存在しているか、とそれは機能しているかが対になって評価するケースについて、前者は「ある」か「ない」かで分りやすいが、後者は委員によっては評価がわかれることが多い。何をもって機能していると判断するかに一応の指針を示されてはどうか。

**○評価基準及び観点についての意見、感想など**

・　平成 22 年度以降に開始される第２回目の認証評価について、私見を簡単に述べさせていただきます。
　先日の中央教育審議会の答申において、高専教育の有用性について述べられておりました。特に、高校、大学と進む中での工学教育とは異なる路線を歩く、「ものづくり」を根幹とした実践的でそして創造性を育む高専教育（地域の学校や企業との密接な連携や、外国への留学やインターンシップによる語学教育など）を、各校が進めていくものと推察される。その取り組みを高く評価する観点を盛り込むことができればと考える。

・　いくつかの観点の中に、例えば（１）ＰＤＣＡを行う体制が整備されているか、また、（２）体制は機能をしているかという設問がある。認証評価を受けることが求められて以来ほとんどの学校が、体制の整備（場合によっては急遽）してきている。しかし教育研究活動の質を保証する立場からは後者の機能しているかの判断がより重要である。機能の程度には学校によって大きなバラツキが見られる。「仏」は作ったがまだ「魂」を入れたとは言えない状態のもの、十分に「魂」を込めているものがある。「魂」の入れ様については主観的な判断とならざるを得ないが、この点についてはこれ迄評価者の意見も曖昧で甘い面もあるようである。評価者側も十分な研鑽と意志統一を図り、「システムが機能していることを見定めて評価すること」の方がより重要ではないか。

### ２．評価の方法及び内容・結果について

**（１）自己評価書について**

**①高等専門学校の自己評価書の理解しにくかった点について**

・　項目に添った記述をしていない。具体的な表現に欠ける。内容が省略しすぎてわかりづらい。

・　一部資料の不足によって内容について推察しなければならない部分があり、訪問調査で確認するという箇所が多く見られた。

・　学校毎の取組姿勢にもよるが、訊ねている観点にエビデンスを明示せずに「満たしている」と結論している場合が散見される、また訊ねている観点が十分把握されていないケースもあり、これでは評価者への説明責任を果していることにならない、機構側から説明会での趣旨説明をもっと徹底する必要あり。

**③自己評価書に必要な根拠資料のうち、引用・添付されていなかったものについて**

・　根拠資料については、調査書の読み込み作業や評価部会が終わってから遅れて根拠資料が提出されたことが難であった。

【評価担当者】

・　観点の回答に関連した校内の各種委員会における議事録等の該当カ所を示すような資料の添付が一般に不十分である。
・　実施している内容は素晴らしいものがあり、それをもう少し丁寧に根拠資料などを添付して記述して頂ければ幸甚でした。

**○自己評価書の様式についての意見、感想など**

・　記述方法について学校で統一見解をもつ。読み直し作業に時間をかける。記述者が評価委員の気持ちになって読み込む、などのきめ細かさが求められる。
・　学内のＰＤＣＡに関して主としてそれが機能していることを示すプロセスに主眼を置いた設問に対して「はい制度は整備しています」「結果は…でした」などとその内容を十分説明せずに入口と出口を示しているだけでは回答になっていない。設問の意図を十分汲み取り、評価者に対して例示を含め、十分な説明責任を果した資料作りを心掛けて頂きたい。

**（２）書面調査について**

**⑤書面調査を行うために必要であったと思われる参考となる情報（客観的データ等）について**

・　他の高専と比較できるデータ（全国平均値等）

**○書面調査についての意見、感想など**

・　感想ですが、３年間任用いただいて多くのことを学ぶことができたが、その中でも書面調査は、回数を重ねるごとに内容を多く理解出来るようになっていった。そしてそれに伴って書面調査に費やす時間もより多くなった。ただこの時間を捻出するのはなかなか難しく、１回３時間程度を毎日夜間や早朝といった時間をそれにあてることによって期限内に書面調査を終えることができホッとした次第である。でも、終わってみると大きな経験ができたと満足している。
・　学校からの自己評価報告書に対して各委員が予め行う調査（８～９月頃）の段階では、それぞれの観点の充足度について十分満たしている（あるいは大変優れている）から、満たしていない（あるいは劣っている）までを５もしくは 10 段階にわけて回答（定量化できる）するようにはできないか？（本アンケートのように…）各委員の感じ方、ニュアンスが伝わって面白いと思うが…同じ「満たしている」でも、「十二分に満たしている」「まあ満たしている」「ぎりぎり満たしている」などがあることは各委員も感じていられることと思う。

**（３）訪問調査について**

**②訪問調査によって十分に確認できなかった点について**

・　不明な点は十分に確認できたが、確認に時間を取られて、優れた点の掘り起こし作業ができなかったのは残念である。
・　評価委員会が予め質問した事項について厖大な資料をポンと渡すのではなく、回答の当該カ所に付箋や赤をつけるなどして貰うと確認が効率的に行える。

**③訪問調査の実施内容（高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）のうち、特に充実又は簡素化すべきものについて**

・　訪問調査の実施内容は評価書の確認ということで、重要な事項である。今年度２日間になって感じることですが、２日間の調査の結果を、夜のミーティングを通して協議し、最終日に再度確認しながらまとめる３日間方式の方がきめ細かな正しい評価ができると考える。

**○訪問調査についての意見、感想など**

・　資料が不備で、内容を理解することが困難な高専があった。しかし、訪問調査に伺ったときには、十分な理解が得られた。つまり、資料作成に関する指導が必要ではないでしょうか。
・　訪問調査については、すべての委員が参加されたこと（欠席者なし）、さらに対象校の対応並びに機構の事務担当者の対応については十二分に満足すべきものとなりました。

**（４）評価結果について**

【評価担当者】

**○評価結果についての意見、感想など**

- ＰＤＣＡサイクルの体制を整備し、それぞれのやり方で進めてきているが、結果がよく出ているものとそうでないものがある。結果に改善の努力が現われていないものは、教育の質の向上につながっているとは言えない。自己完結しているからよいというものではない。目標が低ければ達成しやすく、高ければ達成が難しくなる。そろそろ定量的に横ならび評価の考え方も導入していく頃ではないだろうか。
- 基準５などで、準学士課程と専攻科課程でほぼ同じ観点について評価するようになっているが、これらをもう少し整理して纏められないか検討を乞う。（意図は十分解っているが…）

**３．研修について**

**○研修についての意見、感想など**

- ３年目であるので、十分理解できた。
- シミュレーションスタディではチェックすべきポイントを鋭く指摘し注意喚起を促しているが、書面調査でシミュレーション研修に倣って指摘を試みて行い、個々の委員がそれぞれ持ちよった評価をまとめる打合せ段階では、「そこまで突込まなくても…」と評価がやや甘くなるように感じる場合がある。

**４．評価の作業量、スケジュールについて**

**（１）評価に費やした作業量及び機構の設定した作業期間について**

**○評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間についての意見、感想など**

- 自己評価書が読みやすければこの日程でもよいが、自己評価書が読みにくく、掘り起こし作業に時間がかかるような場合は、十分な日程であるとはいえない。
- 前述したように、書面調査は多くの時間を費やした。しかしそれは仕方のないことと考える。したがって、可能であれば、書面調査の作業期間がもう少し猶予があればと感じた。訪問調査についても、３日間のほうがより正確に評価されるのではと感じた。評価結果の原案作成は、機構の職員の皆様の資料作成のおかげで、大変スムーズに進んだと思う。
- 今回、訪問調査については２日間で行ったが、対象校、審査に携わった委員、機構事務担当者が手馴れていたので、何とか収まったが、一般論としては厳しい、期間が短すぎ対象校と十二分に意志疎通ができなかった、との事態も惹起されるのではないかと推測される。
- 評価結果報告書などの準備を事務局が丁寧に行ってくれるようになったことは評価委員の負担軽減に大変役立っていることを評価したい。

**（２）評価作業に費やした労力について**

**○評価作業に費やした労力についての意見、感想など**

- 費やした労力は、真剣に自己評価書を作成した対象校の教職員のご苦労に報いるものでなければならなく当然と考える。
- 本学の教育にも参考になった。

**（３）評価作業にかかった時間数について**

**○評価作業にかかった時間数についての意見、感想など**

- 前述した通り、必要なことと考える。
- 書面調査が大変だ。分担するのも一つの手段か。

**５．評価部会等の運営について**

**○評価部会等の運営についての意見、感想など**

- 委員長や機構教員の裁量がすばらしい。
- 評価部会の運営は円滑で大変良かったと考える。

**６．評価全般について**

**○評価全般（評価に携わっていただいて感じたことも含め）についての意見、感想など**

- 認証評価を経験できてよかった、とは思うが、正直しんどい。本務を削って、また学生指導や課外活動をあ

【評価担当者】

きらめて（例えば、英語プレゼンテーションコンテスト参加者への指導）の作業は、切ないものがあった。できれば、今後は他の方に代わっていただきたいというのが本音である。

・　多くの皆様のご指導とご協力により、たくさんのことを学ぶことができ、そして貴重な経験をさせていただきありがとうございました。関係各位の皆様には心より感謝申し上げます。

・　本評価については試行段階から５年間携わり、大変有意義な経験をさせて頂きました。感謝いたします。

【評価担当者】

**対　象　校**

**（高等専門学校用）**

# 平成２０年度実施認証評価に関する検証のためのアンケート

貴校名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

**今回、当機構の評価を受けられて、どのように感じられたか、１～９の項目について、それぞれの質問にご回答くださるようお願いいたします。**

**回答様式には、選択式のものと記述式のものがあります。選択式の回答については、該当する番号に〇を付けるか、右端の空欄に数字をご記入ください。また、記述式の回答について、枠内に書ききれない場合には、枠を広げたり、別の紙を使用したりするなどしてご記入ください。特にご意見・ご感想がない場合には空欄のままで結構です。**

**いただいた回答は、選択式のものについては、原則として統計的に処理した上で、また、記述式のものについては、学校名を伏せた上で、公表することといたします。**

【回答例】

| | 強く そう思う (5) | | どちらとも 言えない (3) | | 全くそう 思わない (1) | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 回答例①　・・・・・・・・は、適切であった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 3 |
| 回答例②　・・・・・・・・は、適切であった | 5 | 4 | ③ | 2 | 1 | |

## １．評価基準及び観点について

当機構が設定した評価基準及び観点についてどのように思われましたか。評価の目的である教育研究活動等の「質の保証」、「改善の推進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、またそれ以外の特徴について、以下の質問にお答えください。

| | 強く そう思う (5) | | どちらとも 言えない (3) | | 全くそう 思わない (1) | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① 評価基準及び観点の構成や内容は、貴校の教育研究活動等の質を保証するために適切であった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ② 評価基準及び観点の構成や内容は、貴校の教育研究活動等の改善を促進するために適切であった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ③ 評価基準及び観点の構成や内容は、貴校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ④ 評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることは適切であった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |

| | ある | ない | |
|---|---|---|---|
| ⑤ 自己評価しにくい評価基準又は観点があった | 2 | 1 | |

→※⑤について、２とご回答いただいた場合、どの評価基準又は観点が自己評価しにくかったかをご記入ください。

| | ある | ない | |
|---|---|---|---|
| ⑥ 内容が重複する評価基準又は観点があった | 2 | 1 | |

→※⑥について、２とご回答いただいた場合、重複していると思われる評価基準又は観点についてご記入ください。

・評価基準及び観点についてご意見、ご感想などをご記入ください。

## ２．評価の方法及び内容について

評価の方法及び内容について、（１）自己評価、（２）訪問調査等、（３）意見の申立ての３項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

### （１）自己評価について

| | 強く そう思う (5) | | どちらとも 言えない (3) | | 全くそう 思わない (1) | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① 評価基準及び観点に基づき、適切に自己評価を行うことができた | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ② 自己評価書に添付する資料は、既に蓄積していたもので十分対応することができた | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |

| | 迷った | 迷って いない | |
|---|---|---|---|
| ③ 自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った | 2 | 1 | |

→※③について、２とご回答いただいた場合、どのような点で迷ったのかをご記入ください。

| |
|---|
| |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ④ 貴校の総合的な状況が広く社会等の理解を得るために、わかりやすい自己評価書を作成することができた | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ⑤ 自己評価書の完成度は満足できるものであった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ⑥ 自己評価書には文字数制限を設けているが、文字数は自己評価書を作成する上で十分な量であった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |

→※⑥について、２又は１とご回答いただいた場合、どのくらいの文字数であればよいと思うかをご記入ください。

| |
|---|
| |

| | 参考にした | 参考にしなかった | |
|---|---|---|---|
| ⑦ 自己評価書の作成にあたって、すでに機構の認証評価を受けた他大学の自己評価書を参考にした | 2 | 1 | |

・自己評価についてご意見、ご感想などをご記入ください。

## （２）訪問調査等について

| | 強く そう思う (5) | | どちらとも 言えない (3) | | 全くそう 思わない (1) | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① 訪問調査の前に提示された、「書面調査による分析状況」の内容は適切であった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |

→※①について、２又は１とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

| |
|---|
| |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ② 訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |

→※②について、２又は１とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

| |
|---|
| |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ③ 訪問調査時に機構の評価担当者（事務担当者を除く。以下同様。）が質問した内容は適切であった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ④ 訪問調査の実施内容（大学関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）は適切であった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ⑤ 訪問調査では、機構の評価担当者との間で、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ⑥ 訪問調査時の機構の評価担当者の人数や構成は適切であった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |

→※⑥について、２又は１とご回答いただいた場合、どのような人数や構成が適切であると思うかをご記入ください。

| |
|---|
| |

⑦　訪問調査時の機構の評価担当者は十分に研修を受けていたと思う ----------

| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
|---|---|---|---|---|---|

・訪問調査等についてご意見、ご感想などをご記入ください。

| |
|---|
| |

## （３）意見の申立てについて

| | 強く そう思う (5) | | どちらとも 言えない (3) | | 全くそう 思わない (1) | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① 意見の申立ての実施方法及びスケジュールは適切であった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |

→※①について、２又は１とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

| |
|---|
| |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ② 「意見の申立ての内容及びその対応」を評価報告書に掲載したことは適切であった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |

**以下は、<u>意見の申立てを行った対象校のみ</u>お答えください。**

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ③ 貴校からの意見の申立てに対する機構の対応は適切であった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |

→※③について、２又は１とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

| |
|---|
| |

## ３．評価の作業量、スケジュール等について

評価の作業に関して、（１）評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間、（２）評価作業に費やした労力、（３）評価のスケジュールの３項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

### （１）評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間について

| | ＜作業量＞ とても大きい←(5) | 4 | 適当(3) | 4 | →とても小さい(1) | | ＜作業期間＞ とても長い←(5) | 4 | 適当(3) | 4 | →とても短い(1) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① 自己評価書の作成 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ② 訪問調査の前に提示された「訪問調査時の確認事項」への対応 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ③ 訪問調査のための事前準備 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ④ 訪問調査当日の対応 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ⑤ 意見の申立て | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |

・評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間についてご意見、ご感想などをご記入ください。

（２）評価作業に費やした労力について

| | 強く そう思う (5) | | どちらとも 言えない (3) | | 全くそう 思わない (1) | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① 評価作業に費やした労力は、貴校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ② 評価作業に費やした労力は、貴校の教育研究活動等の改善を進めるという目的に見合うものであった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ③ 評価作業に費やした労力は、貴校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るという目的に見合うものであった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |

・評価作業に費やした労力についてご意見、ご感想などをご記入ください。

（３）評価のスケジュールについて

| | 適当 | 適当でない | |
|---|---|---|---|
| ①　自己評価書の提出時期（６月末）は適当であった<br>（適当でないと回答された場合、どの時期が適当か自由記述欄にお書きください。）---- | 2 | 1 | |
| ②　訪問調査の実施時期（１０月上旬～１２月中旬）は適当であった<br>（適当でないと回答された場合、どの時期が適当か自由記述欄にお書きください。）---- | 2 | 1 | |

・評価のスケジュールについてご意見、ご感想などをご記入ください。

| |
|---|
| |

## ４．説明会・研修会等について

認証評価に関する説明会、自己評価担当者等に対する研修会、その他機構が実施する各種説明等について以下の質問にお答えください。

| | 強く そう思う (5) | ← | どちらとも 言えない (3) | → | 全くそう 思わない (1) | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① 説明会の配付資料は理解しやすかった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ② 説明会の内容は理解しやすかった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ③ 説明会の内容は役立った | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ④ 自己評価担当者等に対する研修会の配付資料は理解しやすかった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ⑤ 自己評価担当者等に対する研修会の内容は理解しやすかった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ⑥ 自己評価担当者等に対する研修会の内容は役立った | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ⑦ 機構が配付している自己評価実施要項等の冊子は役立った | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ⑧ 機構が行った訪問説明は役立った | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ⑨ 説明会、研修会等における機構の事務担当者の対応（質問等に対する対応）は適切であった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |

・説明会・研修会等についてご意見、ご感想などをご記入ください。

## ５．評価結果（評価報告書）について

評価結果（評価報告書）について、（１）評価報告書の内容等、（２）自己評価書及び評価報告書の公表、（３）評価結果に関するマスメディア等の報道の３項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

### （１）評価報告書の内容等について

| | 強くそう思う (5) | | どちらとも言えない (3) | | 全くそう思わない (1) | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① 評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等の質の保証をするために十分なものであった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ② 評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等の改善に役立つものであった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ③ 評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等について社会の理解と支持を得ることを支援・促進するものであった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ④ 評価報告書の内容は、貴校の目的に照らし適切なものであった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ⑤ 評価報告書の内容は、貴校の実態に即したものであった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ⑥ 評価報告書の内容は、貴校の規模等（資源・制度など）を考慮したものであった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ⑦ 評価報告書の内容から、教育研究活動等に関して新たな視点が得られた | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ⑧ 評価報告書の構成及び内容は分かりやすいものであった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |

→※⑧について、２又は１とご回答いただいた場合、どのような点が分かりにくかったかをご記入ください。

| |
|---|
| |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ⑨ 総じて、機構による評価報告書の内容は適切であった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |

（２）自己評価書及び評価報告書の公表について

| | している | していない | |
|---|---|---|---|
| ① 今回の評価のために作成した自己評価書をウェブサイトなどで公表している | 2 | 1 | |
| ② 評価報告書をウェブサイトなどで公表している | 2 | 1 | |

（３）評価結果に関するマスメディア等の報道について

| | 強くそう思う (5) | | どちらとも言えない (3) | | 全くそう思わない (1) | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① 評価結果に関して、マスメディア等から適切な報道がなされた | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |

・評価結果（評価報告書）についてご意見、ご感想などをご記入ください。

## ６．評価を受けたことによる効果・影響について

評価を受けたことによる効果・影響について、自己評価実施時点での効果・影響と機構の評価結果を受けての効果･影響とに分けて質問しますので､それぞれお答えください｡(具体の活用例、改善例については、別途「７．評価結果の活用について」で質問します｡)

（１）自己評価を行ったことによって、次のような効果・影響がありましたか

| | 強くそう思う (5) | | どちらとも言えない (3) | | 全くそう思わない (1) | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① 貴校の教育研究活動等について全般的に把握することができた | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ② 貴校の教育研究活動等の今後の課題を把握することができた | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ③ 教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透した | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ④ 各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上した | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ⑤ 貴校の教育研究活動等の改善を促進した | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ⑥ 貴校の将来計画の策定に役立った | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ⑦ 貴校のマネジメントの改善を促進した | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ⑧ 貴校の個性的な取組を促進した | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ⑨ 自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透した | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ⑩ 評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上した | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |

・自己評価を行ったことによる効果・影響に関連して、ご意見、ご感想などがありましたらご記入ください。

（２）機構の評価結果を受けて、次のような効果・影響があると思いますか

| | 強くそう思う (5) | | どちらとも言えない (3) | | 全くそう思わない (1) | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① 貴校の教育研究活動等について全般的に把握することができる | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ② 貴校の教育研究活動等の今後の課題を把握することができる | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ③ 教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透する | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ④ 各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上する | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ⑤ 貴校の教育研究活動等の改善を促進する | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ⑥ 貴校の将来計画の策定に役立つ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ⑦ 貴校のマネジメントの改善を促進する | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ⑧ 貴校の個性的な取組を促進する | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ⑨ 自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透する | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ⑩ 教職員に評価結果の内容が浸透する | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ⑪ 評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上する | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ⑫ 貴校の教育研究活動等の質が保証される | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ⑬ 学生（今後入学する学生を含む）の理解と支持が得られる | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ⑭ 広く社会の理解と支持が得られる | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ⑮ 他大学の評価結果から優れた取組を参考にする | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |

・機構の評価結果による効果・影響に関連してご意見、ご感想がありましたら、ご記入ください。

## 7．評価結果の活用について

（1）　今回の評価（機構の評価結果だけでなく、貴校における自己評価及びその後の評価の過程で得られた知見を含む。）を契機として、課題として認識し、何らかの変更・改善を予定している事項（または実施済みの事項）がありましたら、その主要な事項について、簡潔にご記述ください。

　また、その変更・改善の際に、今回の評価はどの程度参考になったかを５段階でお答えください。

　特に、評価結果において「改善を要する点」として指摘を受けた事項について、変更・改善を予定しているもの（または実施済みのもの）がありましたら、必ずご記述ください。

**注：本質問は、機構の評価がどの程度対象校の改善に活用されているかを把握することにより、評価方法の改善を図ろうとするものです。貴校の変更・改善の取組状況自体を評価することを目的とするものではありません。**

| | | 非常に参考になった (5) | | 参考になった (3) | | あまり参考にならなかった (1) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 課題 | （記入例）<br>【基準６】卒業生のアンケート結果から見て、「外国語の能力」の達成度が十分ではない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 3 |
| 変更・改善 | 「外国語の能力」の達成度を向上させるため、平成 20 年度から、カリキュラムの充実、学習環境の整備を行うこととしている。 | | | | | | |
| 課題 | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| 変更・改善 | | | | | | | |
| 課題 | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| 変更・改善 | | | | | | | |
| 課題 | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| 変更・改善 | | | | | | | |

※必要に応じて、枠の数を増やしたり、縦幅を大きくしてください

（2）　貴校では、今後、次のような事柄に評価報告書を用いる予定がありますか。以下の該当する番号に○を付けるか、下の回答欄に番号を記入してください。（複数回答可）

1　貴校の広報誌に評価結果を掲載する。　　2　貴校のウェブサイトで評価結果を公表する。

3　資金獲得のための申請書に記載する。　　4　学生募集の際に用いる。

5　共同研究等の相手先企業を募集するパンフレット等に用いる。

6　その他（具体的に）

（　　）

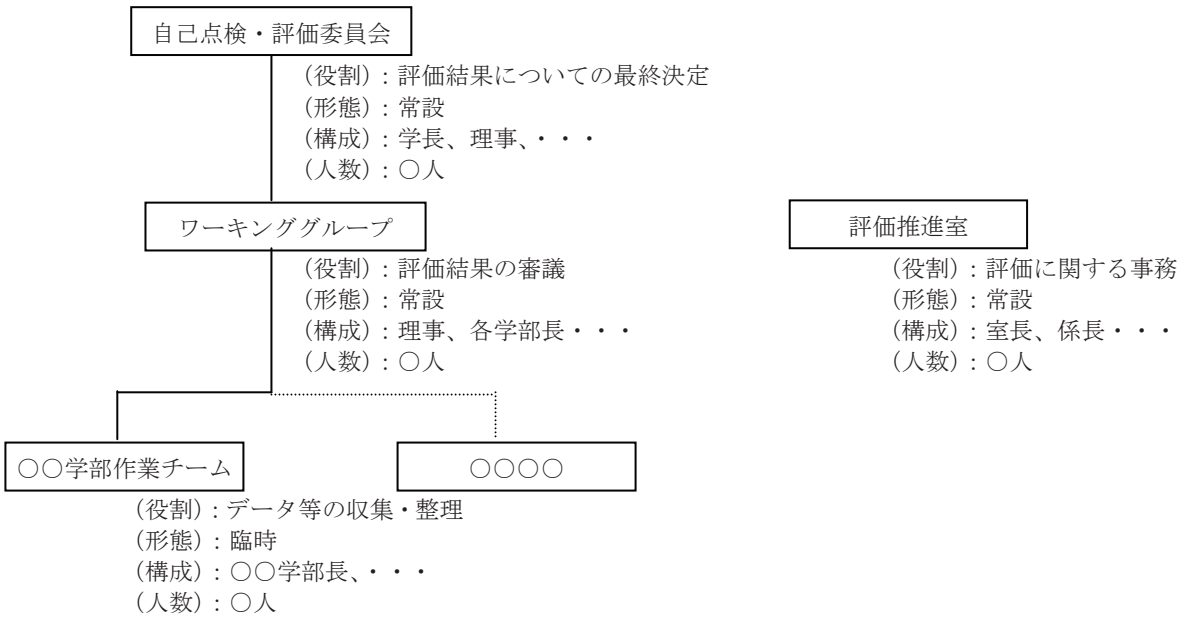
| 回答欄 | |
|---|---|

## ８．評価の実施体制について

**貴校の評価の実施体制についてお教えください。今後の当機構の評価を、より効果的なものとするために参考とさせていただきます。**

評価（自己点検・評価、認証評価、国立大学法人評価等）を行うための実施体制について、その組織名称、役割、設置形態（常設・臨時）、人数構成等をお教え下さい。「例」を適宜参考にし、わかりやすくご記入ください。（以下の「例」は削除して結構です。）既存の資料がありましたら、それを添付していただいて結構です。

（記入例）




他に具体的な説明等がありましたら以下にご記入ください。

評価の実施体制について、貴校が行っている方策・工夫等がありましたらお教えください。また、その方策・工夫等について良かった点、悪かった点等、その他ご感想についても併せてお教えください。

## ９．その他

認証評価機関として当機構をお選びいただいた理由や、実際に評価を受けて期待どおりであったかについてご記入ください。

その他、当機構の行う評価についてご意見等がありましたら、ご記入ください。

ご協力ありがとうございました

**評 価 担 当 者**

**（高等専門学校用）**

# 平成２０年度実施認証評価に関する検証のためのアンケート

ご氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

**今回、当機構の評価に携わっていただいて、どのように感じられたか、以下の１～６の項目について、それぞれの質問にご回答くださるようお願いいたします。**

**回答様式には、選択式のものと記述式のものがあります。選択式の回答については、該当する番号に〇を付けるか、右端の空欄に数字をご記入ください。また、記述式の回答について、枠内に書ききれない場合には、枠を広げたり、別の紙を使用したりするなどしてご記入ください。特にご意見・ご感想がない場合には空欄のままで結構です。**

**いただいた回答は、選択式のものについては、原則として統計的に処理した上で、また記述式のものについては、ご氏名を伏せた上で、公表することといたします。**

【回答例】

| | 強くそう思う (5) | | どちらとも言えない (3) | | 全くそう思わない (1) | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 回答例①　・・・・・・・・・は、適切であった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 3 |
| 回答例②　・・・・・・・・・は、適切であった | 5 | 4 | ③ | 2 | 1 | |

## １．評価基準及び観点について

当機構が設定した評価基準及び観点についてどのように思われましたか。評価の目的である教育研究活動等の「質の保証」、「改善の推進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、またそれ以外の特徴について、以下の質問にお答えください。

| | 強く そう思う (5) | | どちらとも 言えない (3) | | 全くそう 思わない (1) | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の質を保証するために適切であった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ② 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するために適切であった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ③ 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ④ 評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることは適切であった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |

| | ある | ない | |
|---|---|---|---|
| ⑤ 評価しにくい評価基準又は観点があった | 2 | 1 | |

→※⑤について、２とご回答いただいた場合、どの評価基準又は観点が評価しにくかったかをご記入ください。

| |
|---|
| |

| | ある | ない | |
|---|---|---|---|
| ⑥ 内容が重複する評価基準又は観点があった | 2 | 1 | |

→※⑥について、２とご回答いただいた場合、重複していると思われる評価基準又は観点についてご記入ください。

| |
|---|
| |

・評価基準及び観点についてご意見、ご感想などをご記入ください。

## ２．評価の方法及び内容・結果について

評価の方法及び内容・結果について（１）自己評価書、（２）書面調査、（３）訪問調査、（４）評価結果の４項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

### （１）自己評価書について

| | 強くそう思う (5) | | どちらとも言えない (3) | | 全くそう思わない (1) | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① 対象校の自己評価書は理解しやすかった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |

→※①について、２又は１とご回答いただいた場合、どのような点が理解しにくかったかをご記入ください。

| |
|---|
| |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ② 自己評価書には評価基準及び観点の内容が適切に記述されていた | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ③ 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |

→※③について、２又は１とご回答いただいた場合、どのような根拠資料が引用・添付されていなかったかをご記入ください。

| |
|---|
| |

**・自己評価書の様式についてご意見、ご感想などをご記入ください（特に対象校に事前に伝えたい点、様式上の事項として不足のあった点などがあればお聞かせください）。**

| |
|---|
| |

## （２）書面調査について

④　機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった ----------

| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
|---|---|---|---|---|---|

→※④について、２又は１とご回答いただいた場合、どのような点が記入しにくかったかをご記入ください。

⑤　書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報（客観的データ等）があればよかった。----------

| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
|---|---|---|---|---|---|

→※⑤について、５又は４とご回答いただいた場合、どのような情報（客観的データ等）であったかをご記入ください。

・書面調査についてご意見、ご感想などをご記入ください。

## （３）訪問調査について

| | 強く そう思う (5) | | どちらとも 言えない (3) | | 全くそう 思わない (1) | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ①　「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ②　訪問調査によって不明な点を十分に確認することができた | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |

→※②について、２又は１とご回答いただいた場合、どのような点が確認できなかったかをご記入ください。

| |
|---|
| |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ③　訪問調査の実施内容（大学関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）は適切であった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |

→※訪問調査の実施内容のうち、特に充実又は簡素化すべきものがあれば、ご記入ください。

| |
|---|
| |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ④　訪問調査では、対象校と、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ⑤　訪問調査時の機構の評価担当者（事務担当者を除く）の人数や構成は適切であった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |

→※⑤について、２又は１とご回答いただいた場合、どのような人数や構成が適切であるかをご記入ください。

| |
|---|
| |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ⑥　訪問調査における機構の事務担当者の対応は適切であった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |

・訪問調査についてご意見、ご感想などをご記入ください。

（４）評価結果について

| | 強く そう思う (5) | | どちらとも 言えない (3) | | 全くそう 思わない (1) | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① 自らが担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ② 基準１から基準 11 の評価で、基準を満たしているかどうかの判断を示すという方法は適切であった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ③ 評価結果全体としての分量は適切であった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ④ 評価報告書の最初に、全体の評価結果と併せて対象校の「主な優れた点」、「主な改善を要する点」を記述するという形式は適切であった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |

・評価結果についてご意見、ご感想などをご記入ください。

## ３．研修について

機構が実施する研修について以下の質問にお答えください。

| | 強く そう思う (5) | | どちらとも 言えない (3) | | 全くそう 思わない (1) | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① 研修の配付資料は理解しやすかった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ② 研修の説明内容は理解しやすかった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ③ 研修の内容は役立った | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ④ 書面調査のシミュレーションは役立った | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ⑤ 研修に費やした時間の長さは適切であった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |

・研修についてご意見、ご感想などをご記入ください。

## ４．評価の作業量、スケジュール等について

評価の作業に関して、（１）評価に費やした作業量及び機構の設定した作業期間、（２）評価作業に費やした労力、（３）評価作業にかかった時間数の３項目に分けて質問しますのでそれぞれお答えください。

### （１）評価に費やした作業量及び機構の設定した作業期間について

| | ＜作業量＞ とても大きい(5) | 4 | ← 適当(3) | 2 | とても→小さい(1) | | ＜作業期間＞ とても長い(5) | 4 | ← 適当(3) | 2 | とても→短い(1) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① 自己評価書の書面調査 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ② 訪問調査への参加 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ③ 評価結果（原案）の作成 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |

・評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間についてご意見、ご感想などをご記入ください。

（２）評価作業に費やした労力について

| | 強く そう思う (5) | ← | どちらとも 言えない (3) | → | 全くそう 思わない (1) | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ② 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するという目的に見合うものであった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ③ 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るという目的に見合うものであった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |

・評価作業に費やした労力についてご意見、ご感想などをご記入ください。

## （３）評価作業にかかった時間数について

評価作業にかかったのべ時間数（部会、訪問調査への出席を除く）について、以下の項目ごとに概数でお答えください。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ① | 自己評価書の書面調査 | およそ | | 時間 |
| ② | 訪問調査の準備 | およそ | | 時間 |
| ③ | 評価結果（原案）の作成 | およそ | | 時間 |

・評価作業にかかった時間数についてご意見、ご感想などをご記入ください。

## ５．評価部会等の運営について

評価部会、専門部会の人数や構成、運営について以下の質問にお答えください。

| | 強く そう思う (5) | ← | どちらとも 言えない (3) | → | 全くそう 思わない (1) | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① 評価部会、あるいは専門部会の委員の人数や構成は適切であった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ② 部会運営は円滑であった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |

・評価部会等の運営についてご意見、ご感想などをご記入ください。

## ６．評価全般について

評価を行ったことによる効果・影響など評価全般について以下の質問にお答えください。

| | 強く そう思う (5) | 4 | どちらとも ←言えない (3) | 2 | 全くそう →思わない (1) | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の質が保証されると思う | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ② 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の改善が促進されると思う | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ③ 今回の評価によって社会の理解と支持が支援・促進されると思う | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ④ 自己の専門知識・能力を評価作業・評価結果に活かすことができた | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ⑤ 今回の評価作業で得た知識を自身の所属組織の運営等に活かすことができた | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ⑥ 総じて機構の認証評価を経験できてよかった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |

**・評価全般（評価に携わっていただいて感じたことも含め）についてご意見、ご感想などをご記入ください。**

ご協力ありがとうございました。